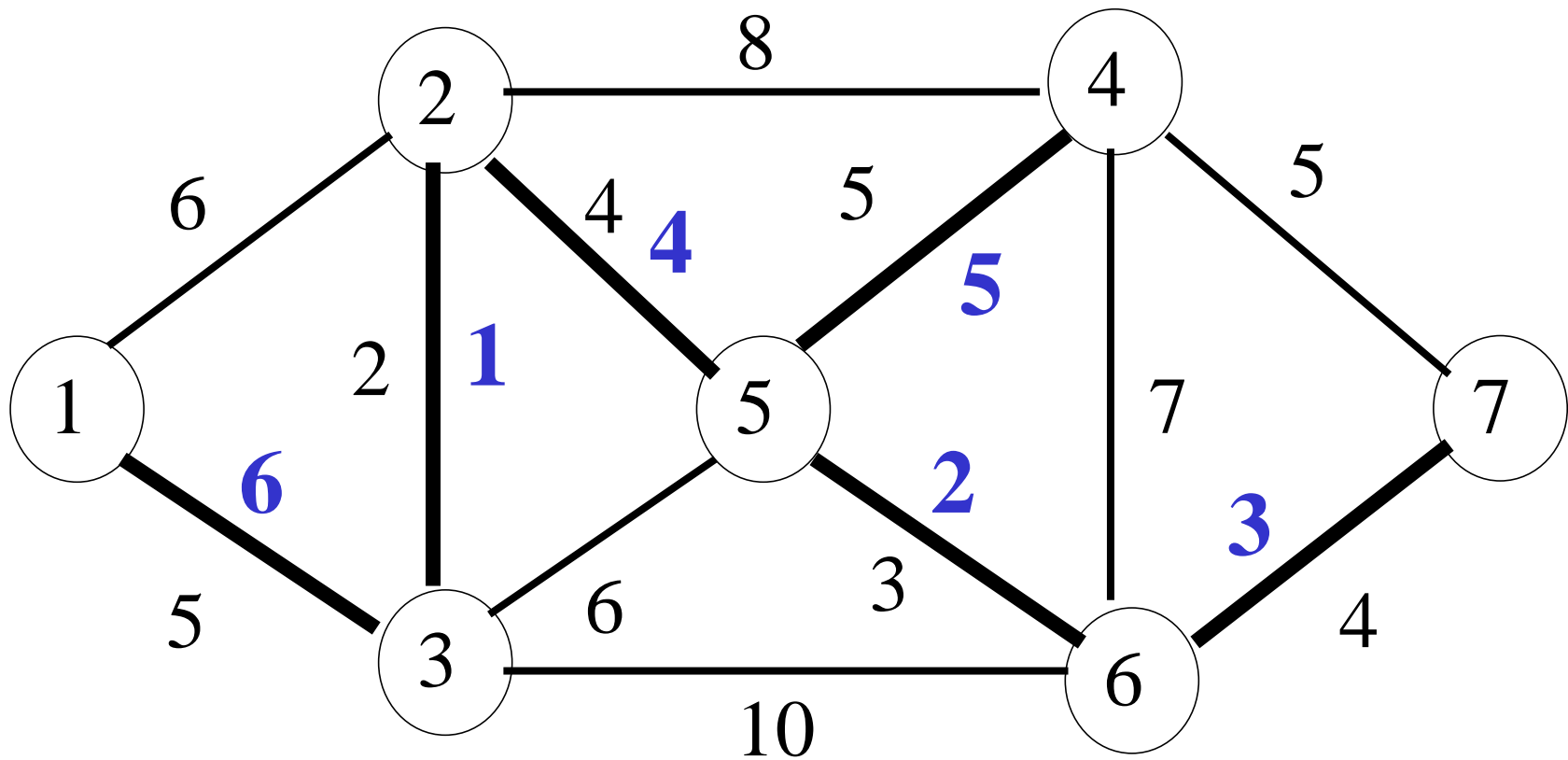


< クラスカル法 > J.B.Kruskal (1956)

- (0) グラフ G の枝を短い順に並べ、 $a_1 \leq a_2 \leq \dots \leq a_m$ を満たすように枝 e_i の番号(添字)を付けかえる. $T := \{e_1\}$, $k := 2$ とおく.
- (1) 枝集合 $T \cup \{e_k\}$ が閉路を含まないならば、 $T := T \cup \{e_k\}$ とする.
- (2) T が G の全域木になっていれば計算終了.
さもなければ $k := k+1$ としてステップ(1)へ.

欲張り法 (Greedy Algorithm)

1. (1) 最小木



<ダイクストラ法> E.Dijkstra (1959)

(0) $S := \varphi$, $\bar{S} := V$, $d(s) := 0$,
 $d(i) := \infty$ ($i \in V - \{s\}$)とおく.

(1) $S = V$ なら計算終了. そうでないなら,
 $d(v) = \min\{d(i) \mid i \in \bar{S}\}$ である節点 $v \in \bar{S}$ を選ぶ.

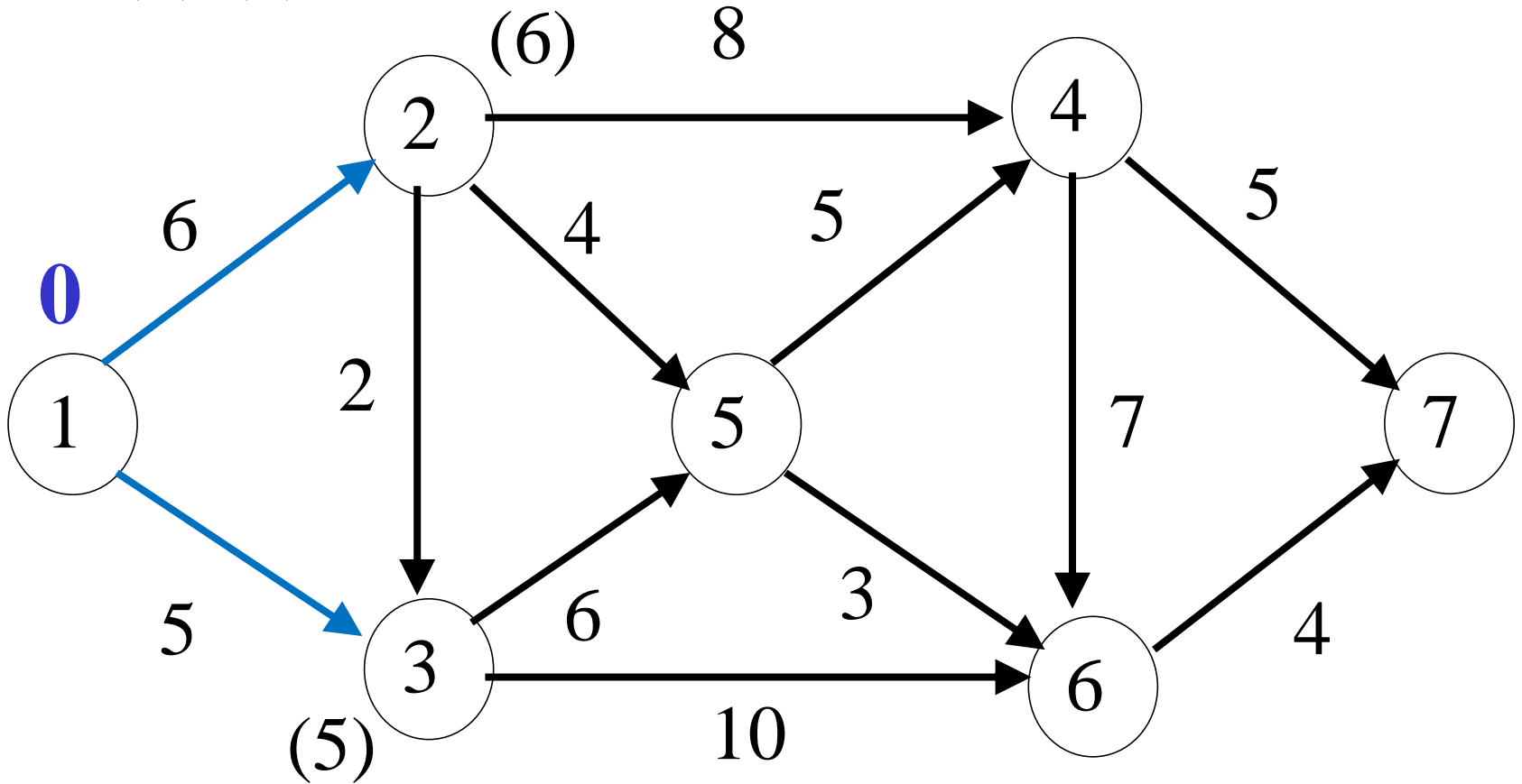
(2) $S := S \cup \{v\}$, $\bar{S} := \bar{S} - \{v\}$ とする.

$d(j) > d(v) + a_{vj}$ ならば $d(j) := d(v) + a_{vj}$
($(v,j) \in E, j \in \bar{S}$)

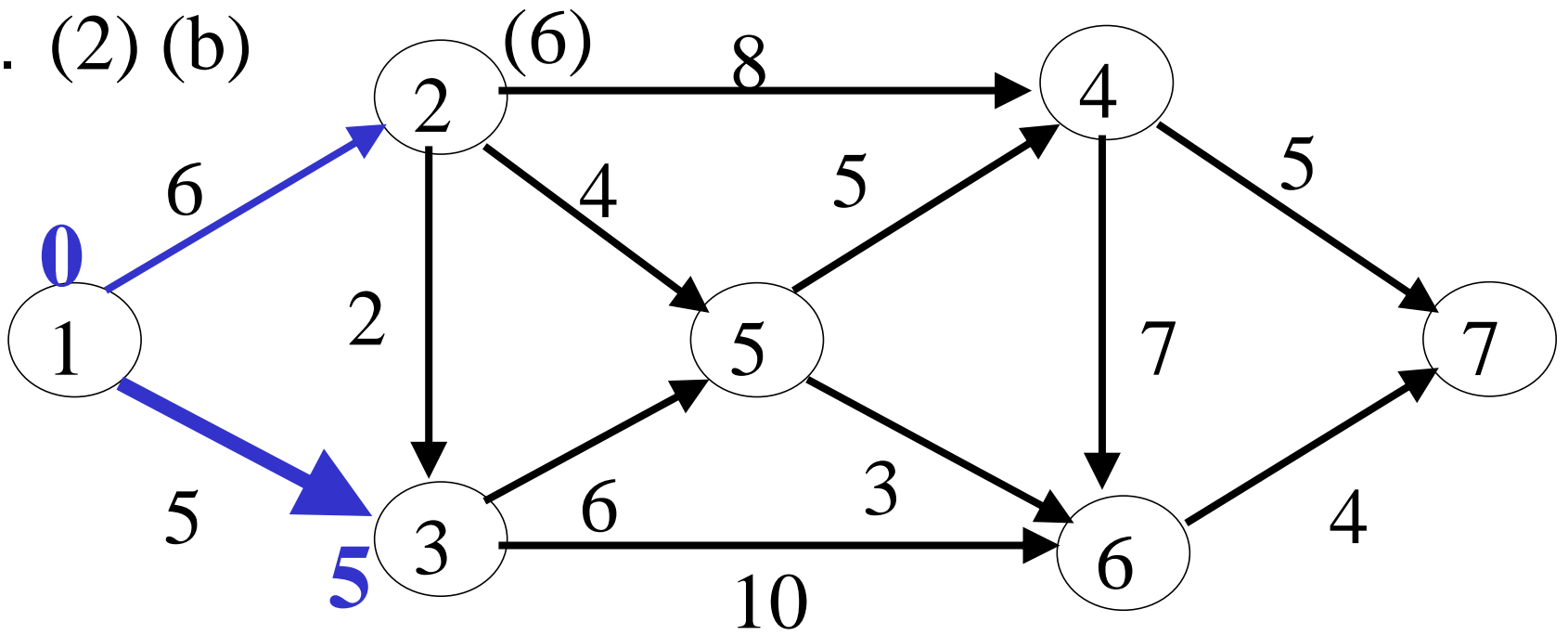
$p(j) := v$ とし, ステップ(1)へ.

1. (2) 最短路

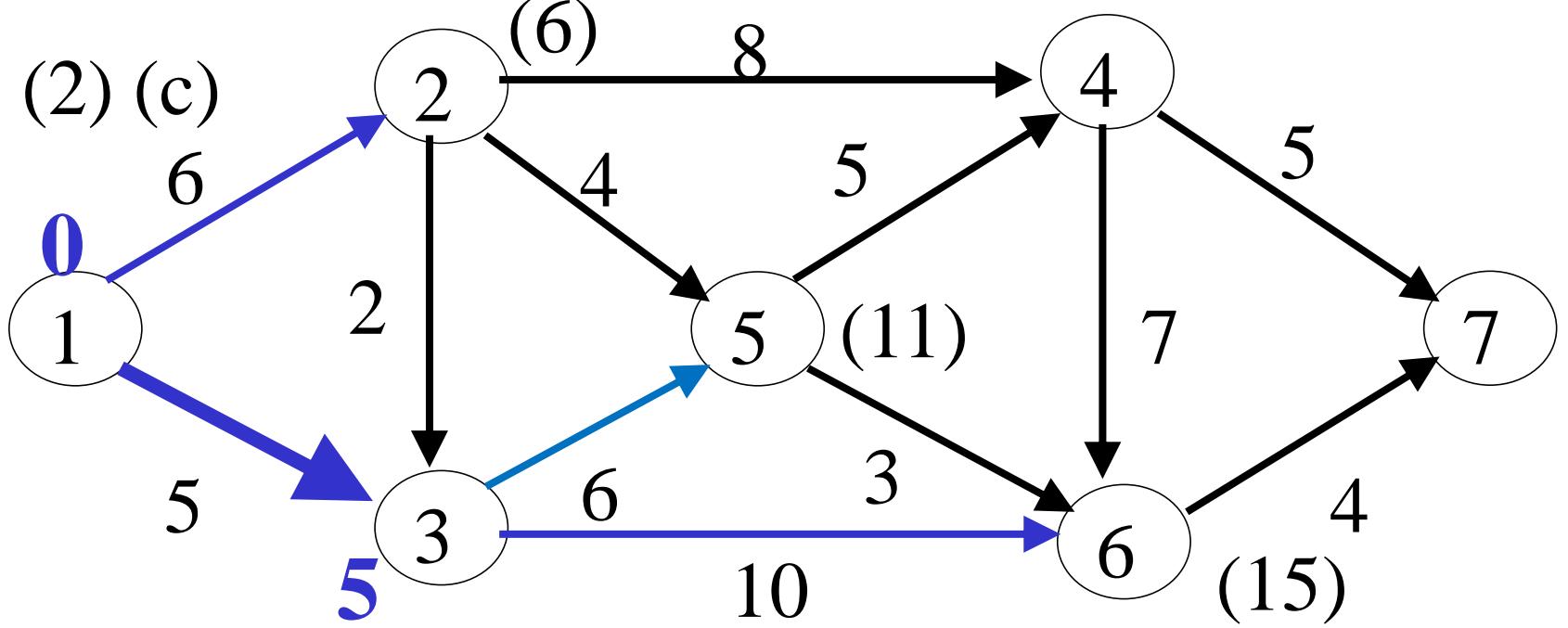
1. (2) (a)



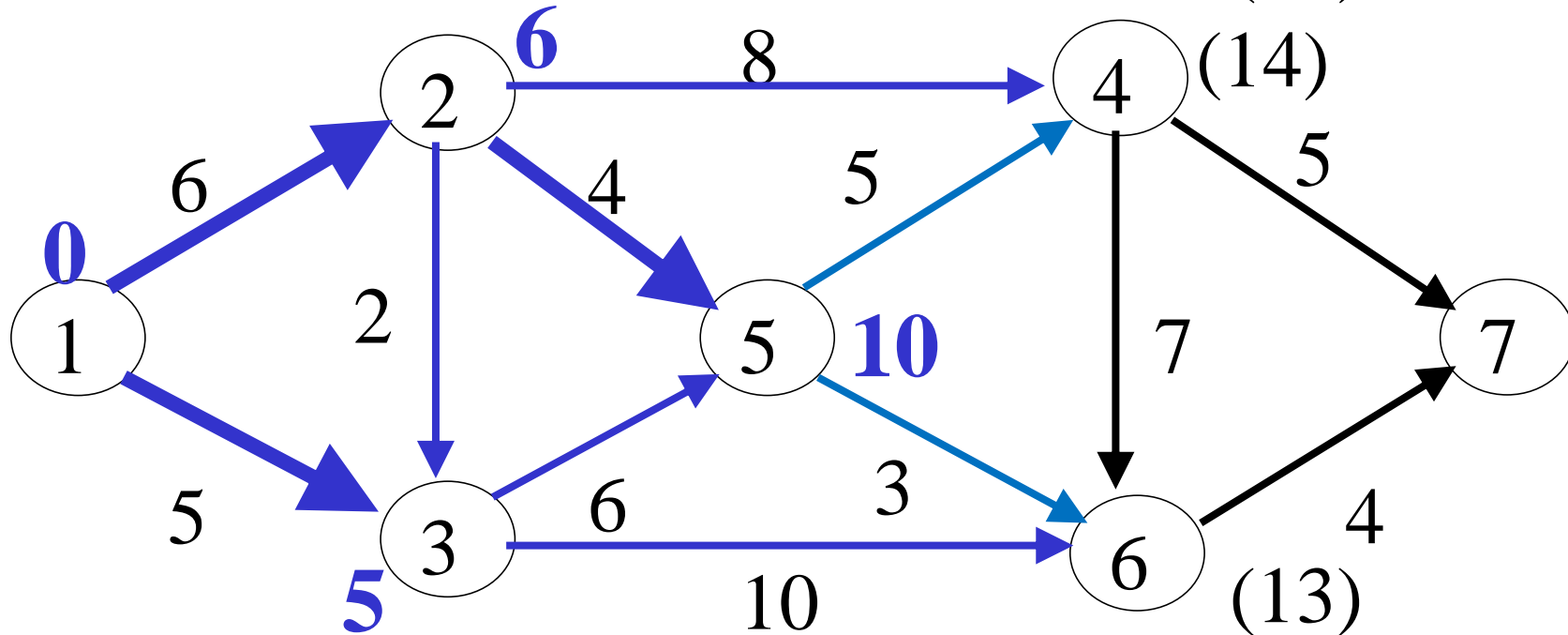
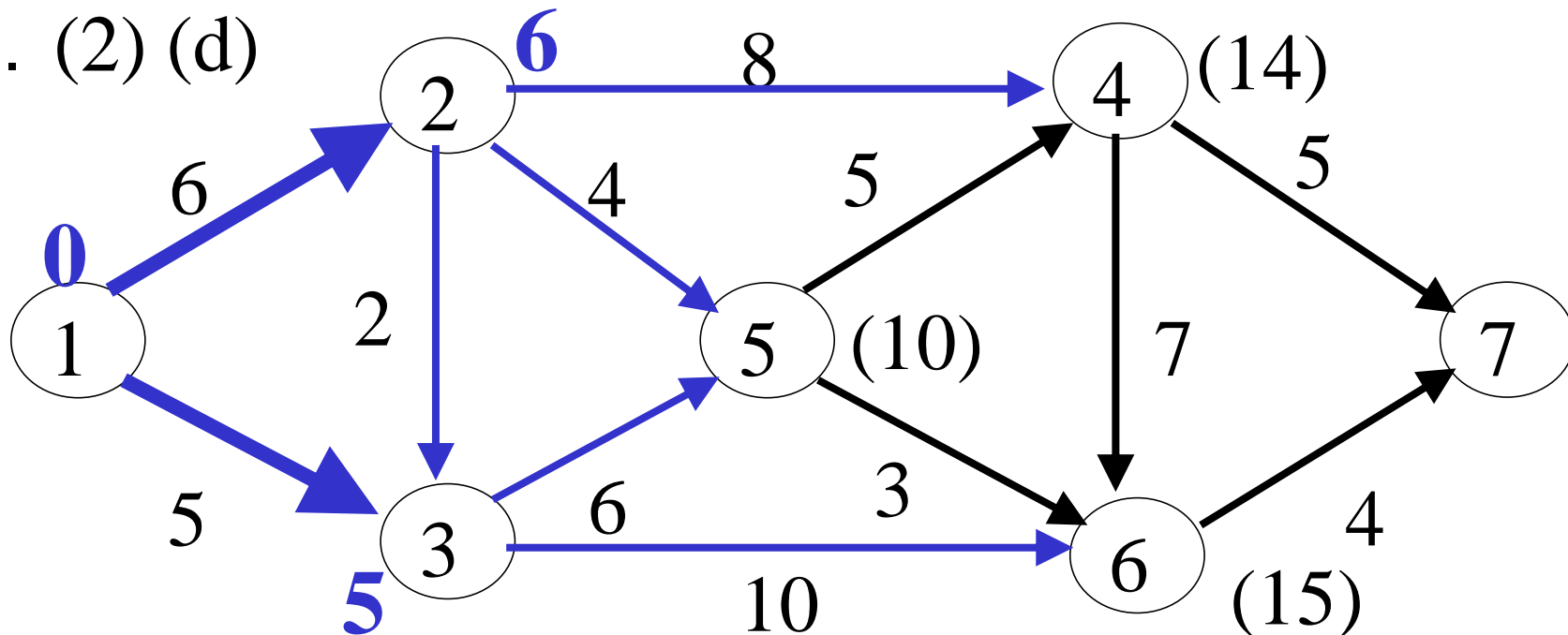
1. (2) (b)

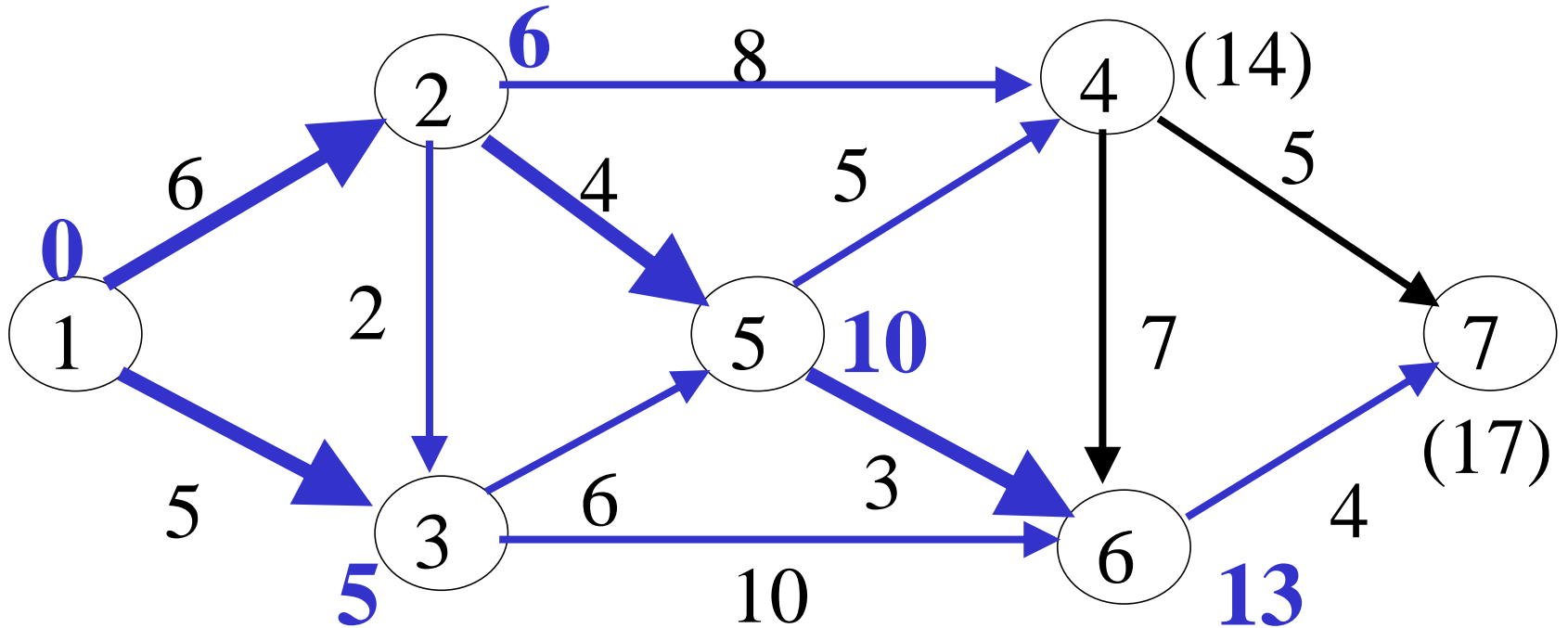
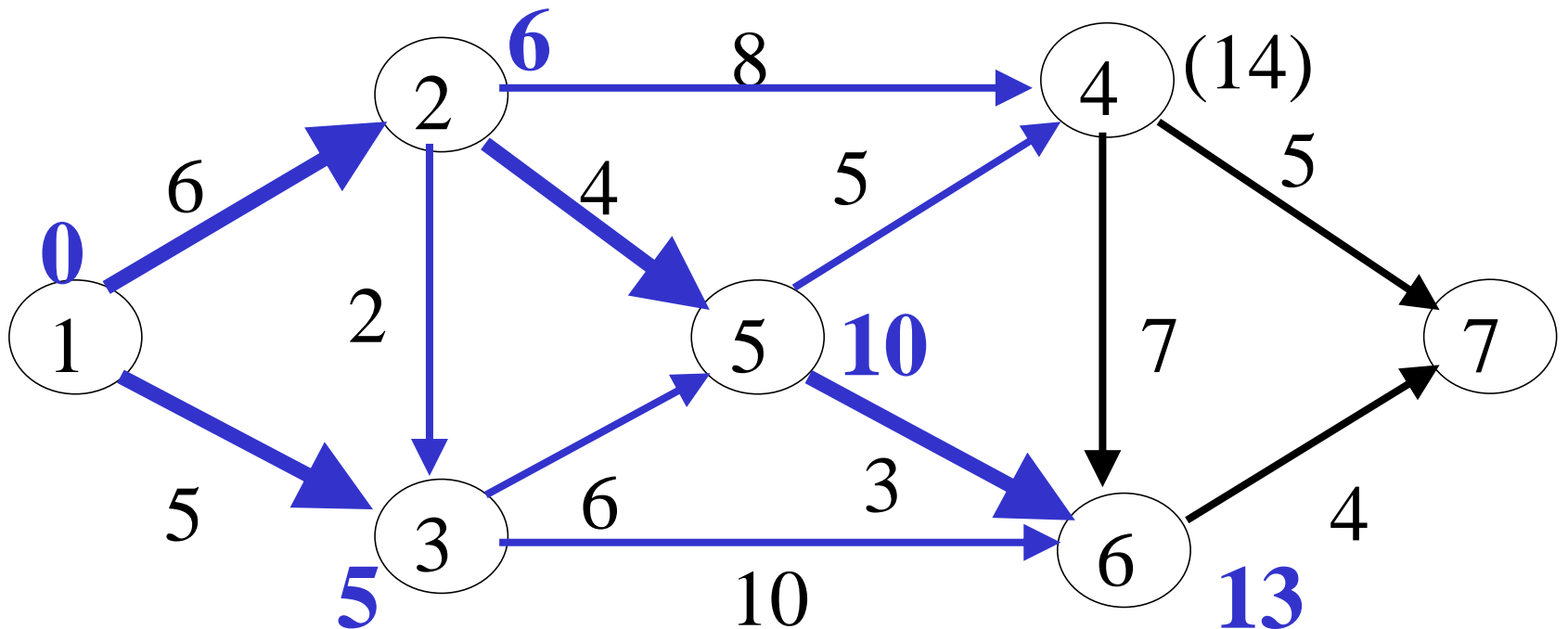


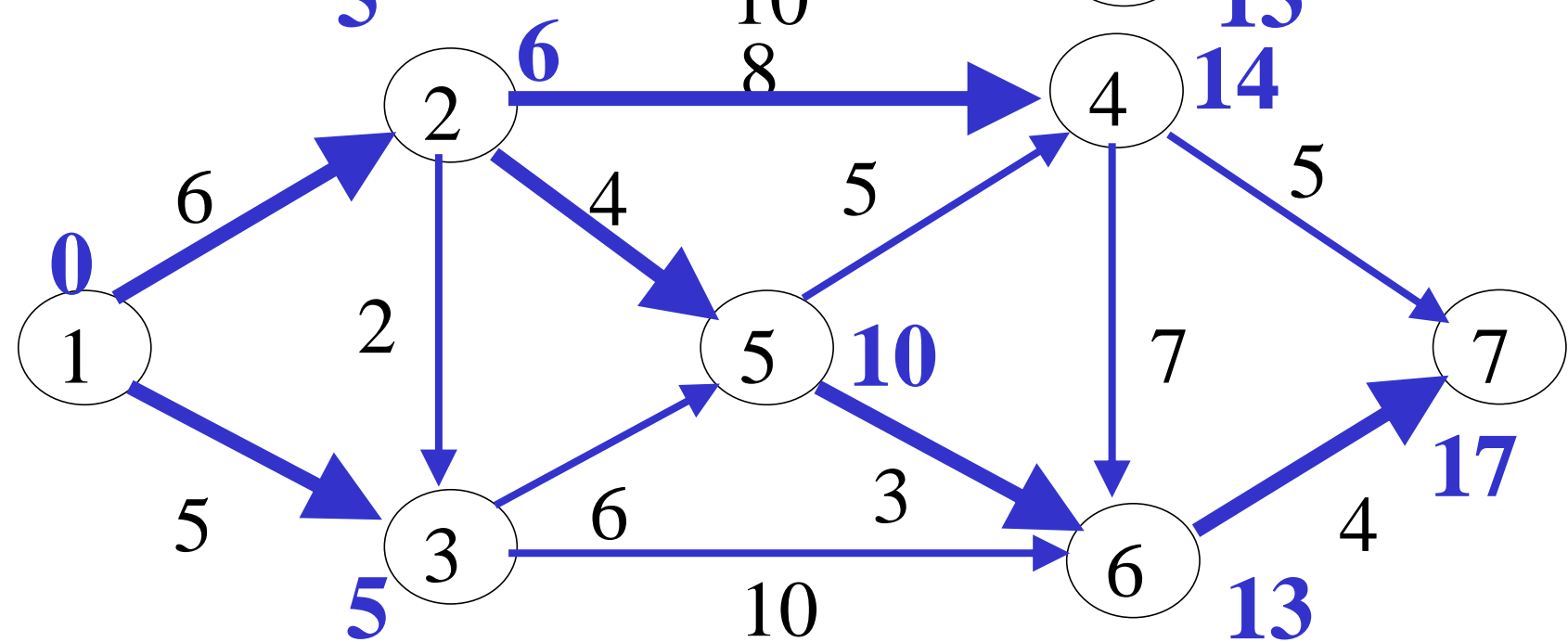
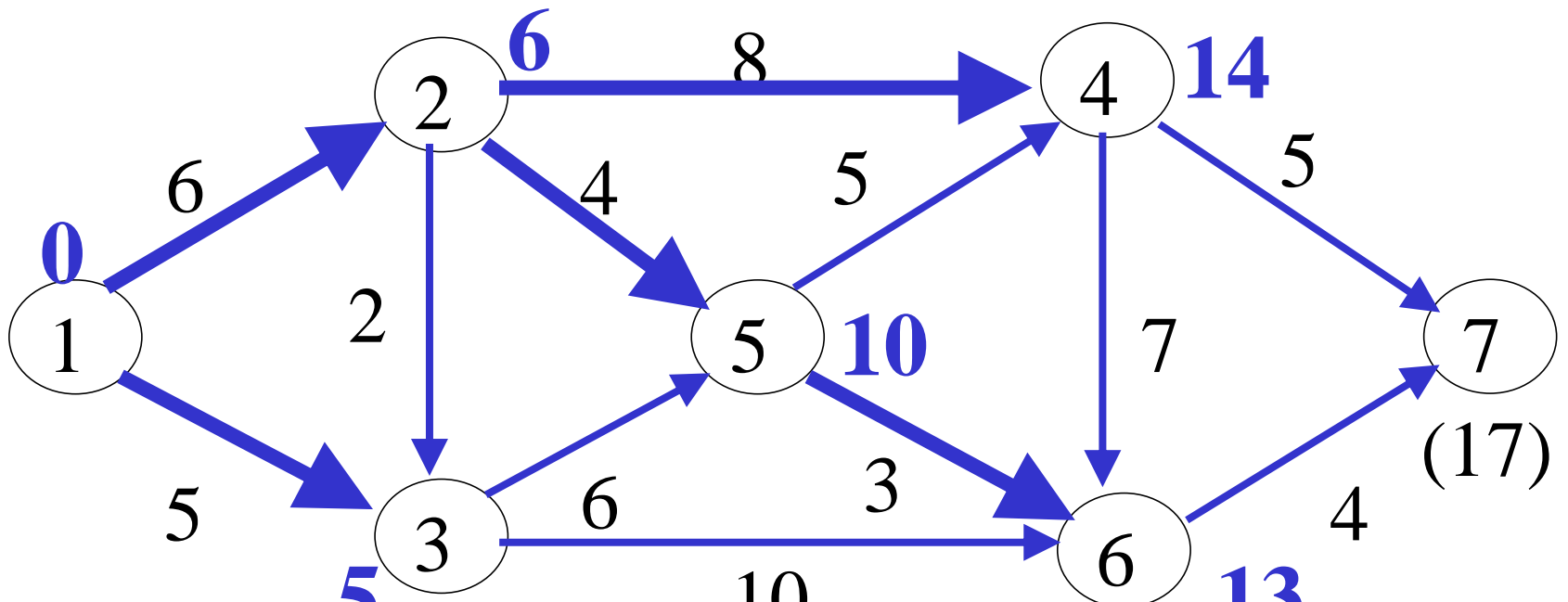
1. (2) (c)



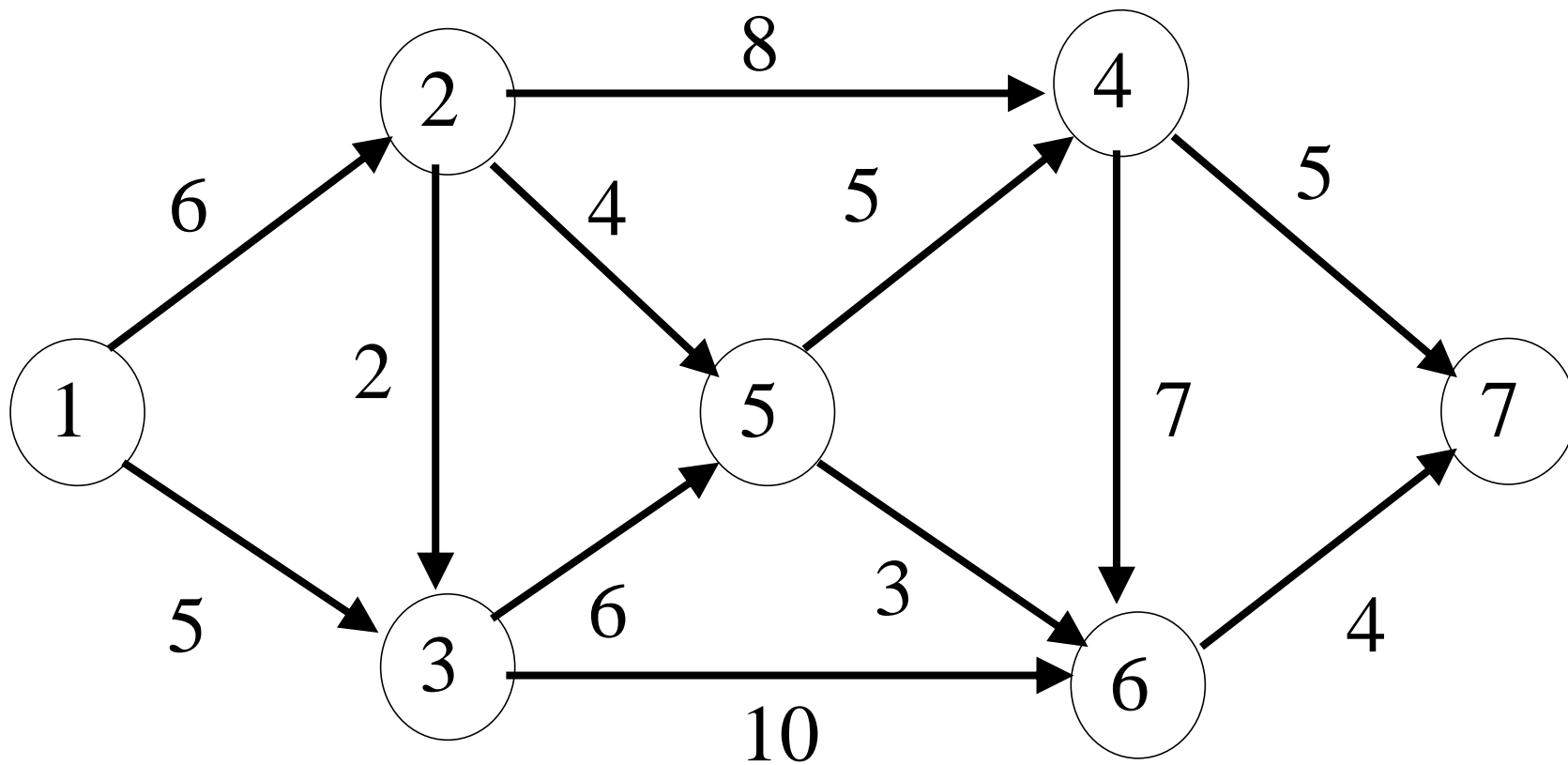
1. (2) (d)



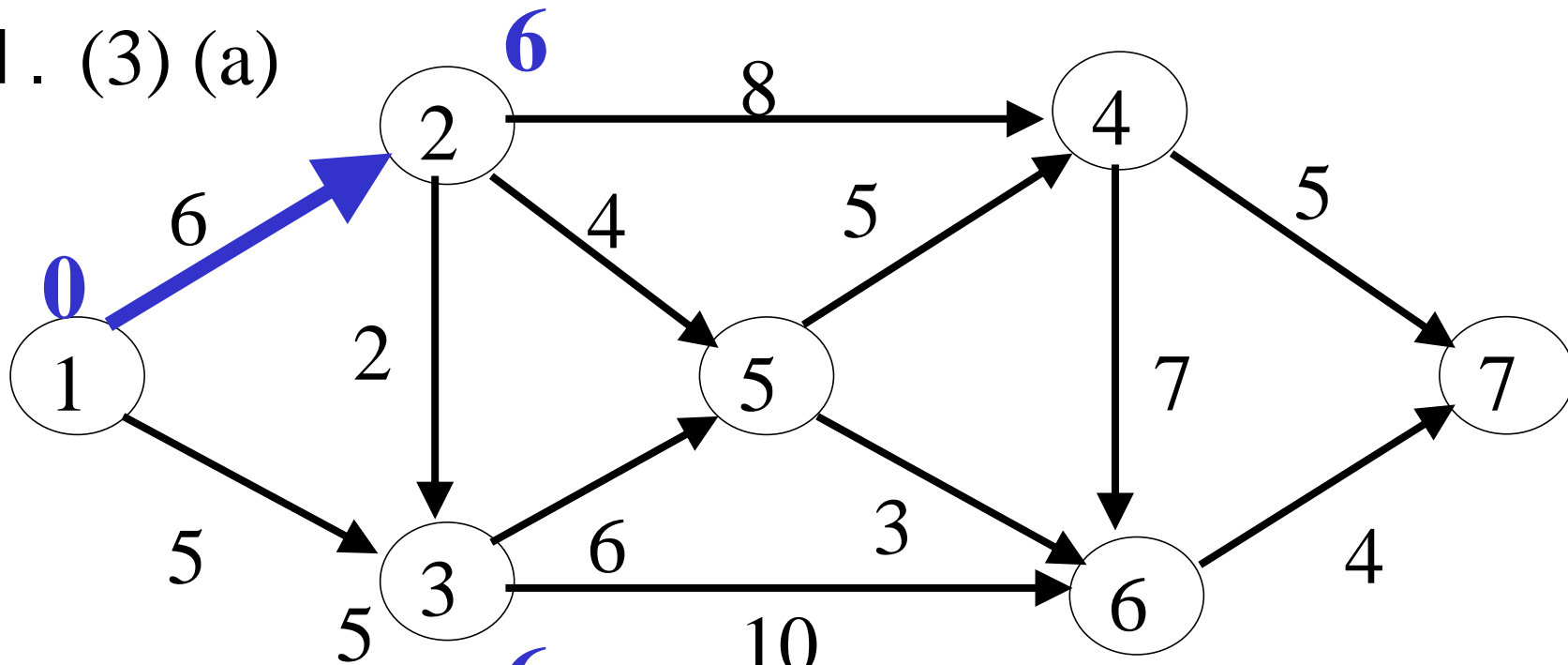




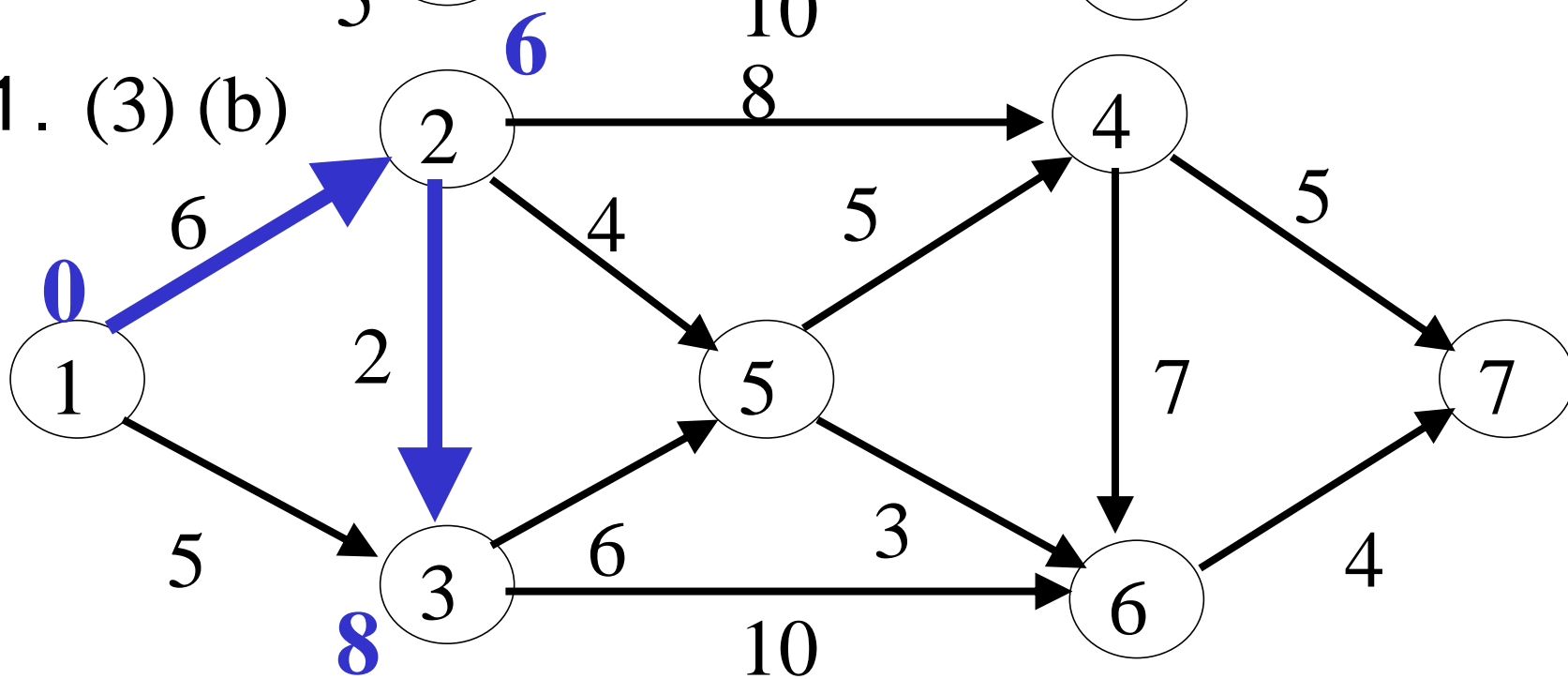
1. (3) 最長路



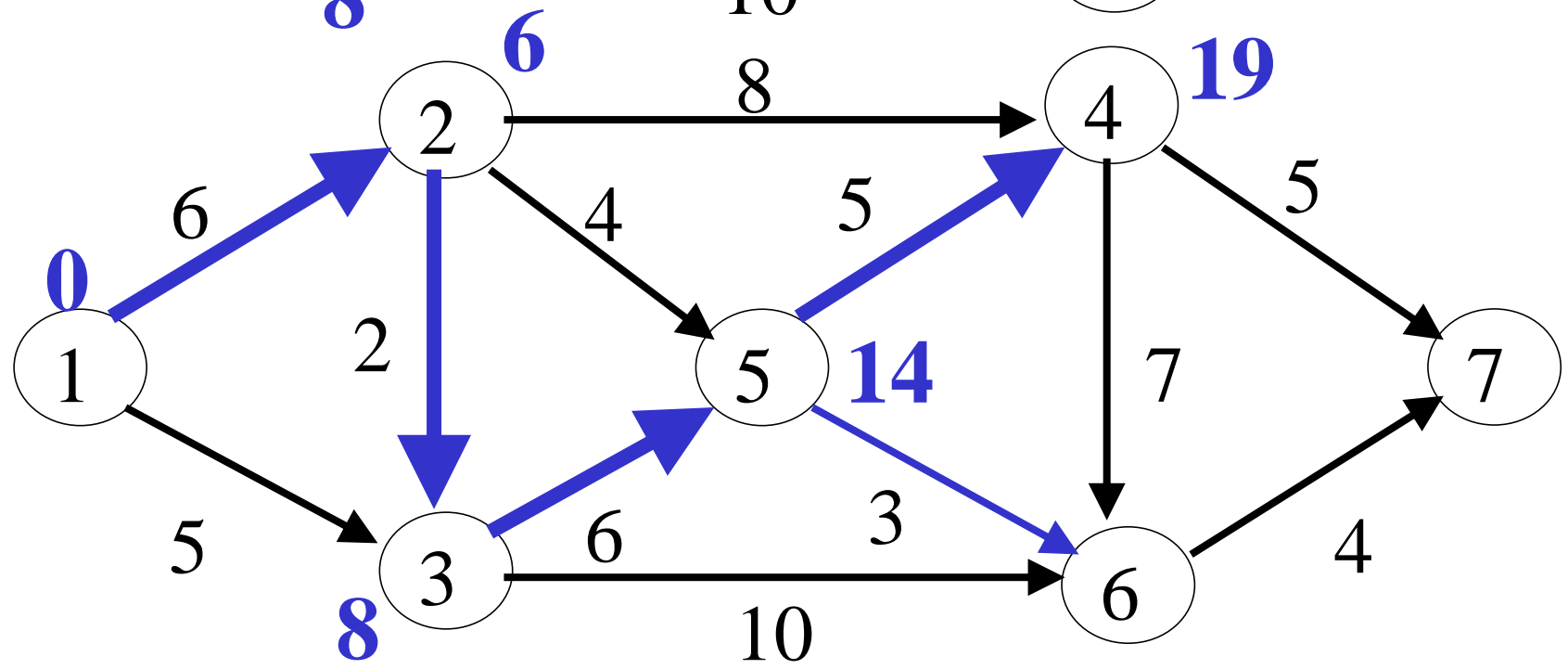
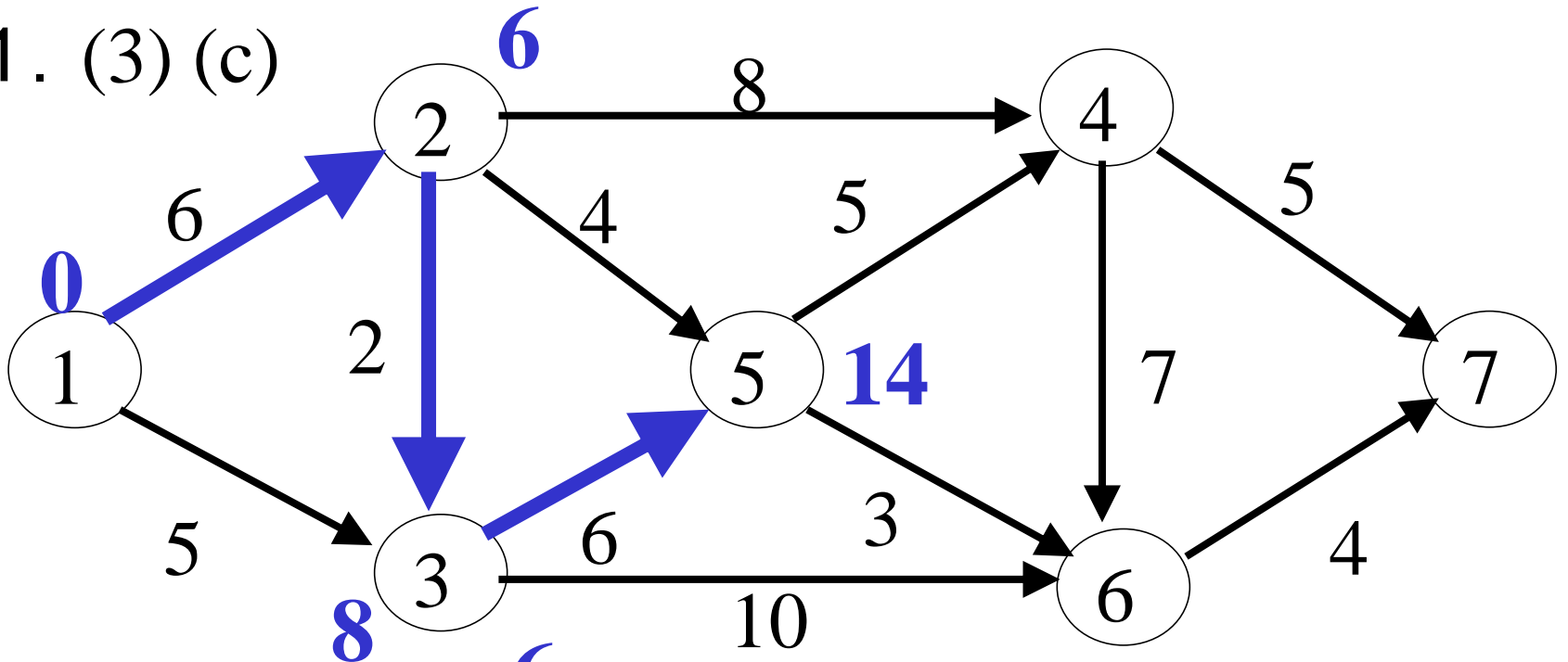
1. (3) (a)

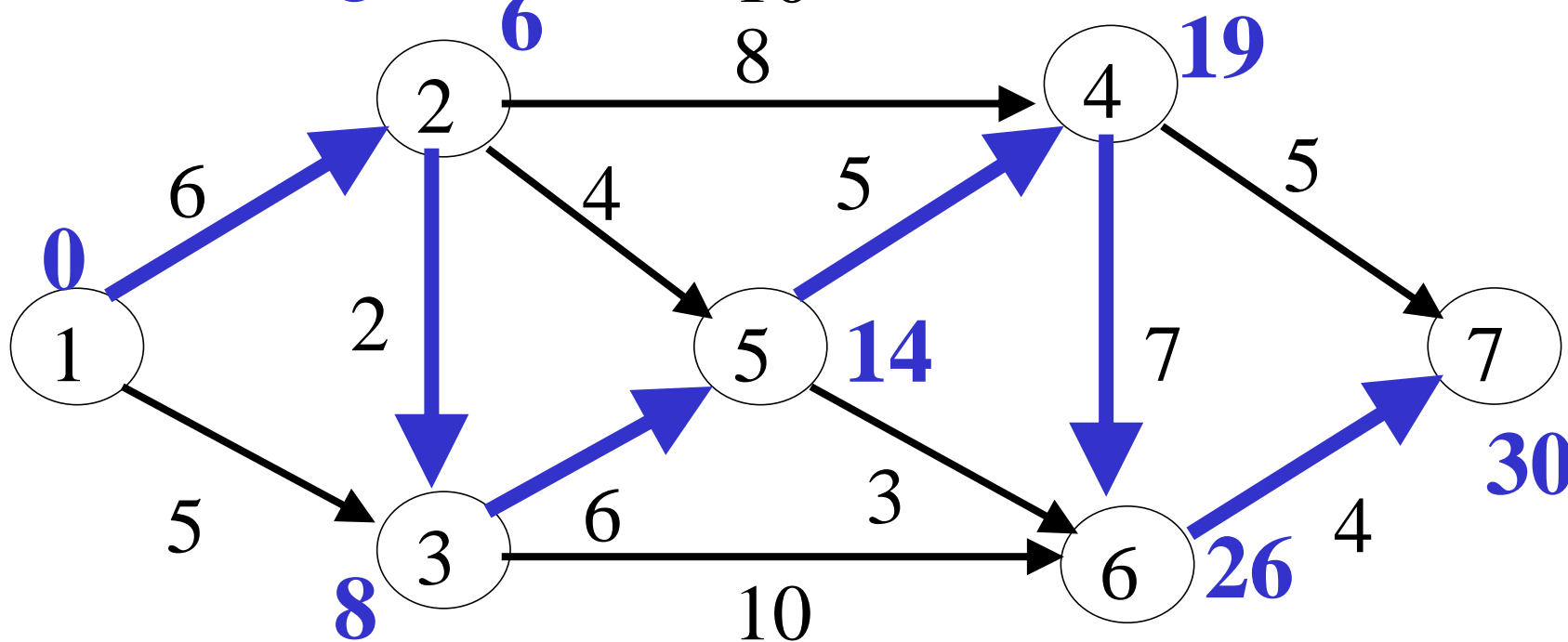
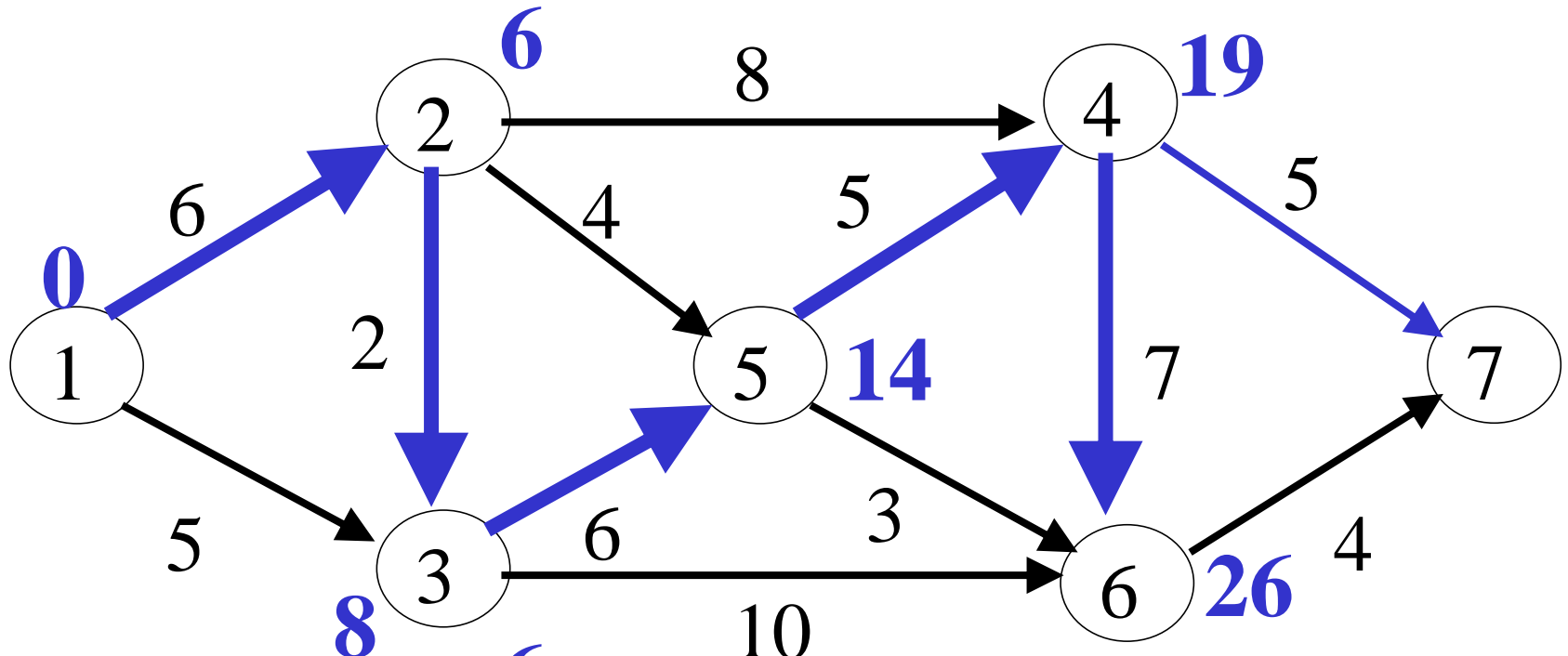


1. (3) (b)



1. (3) (c)

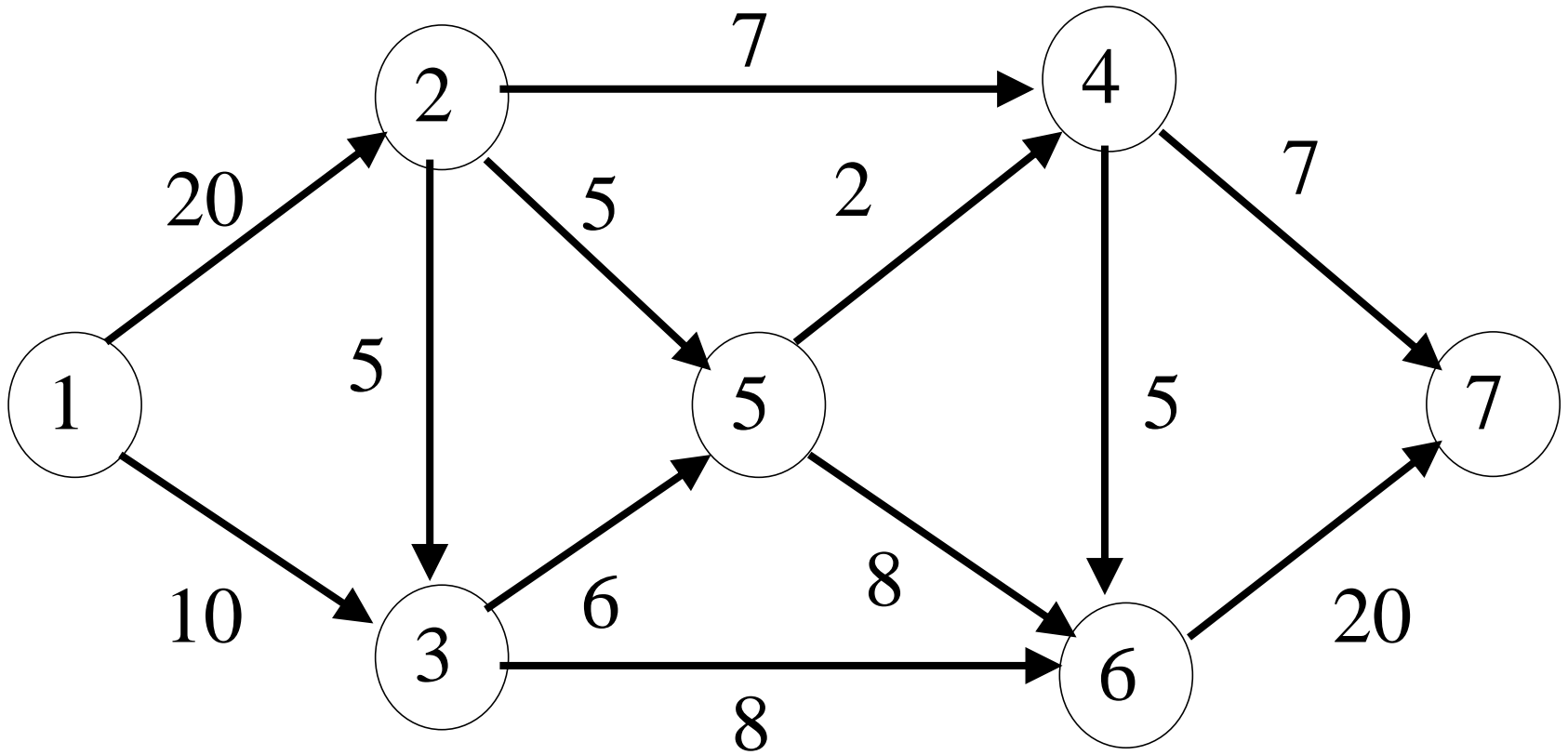




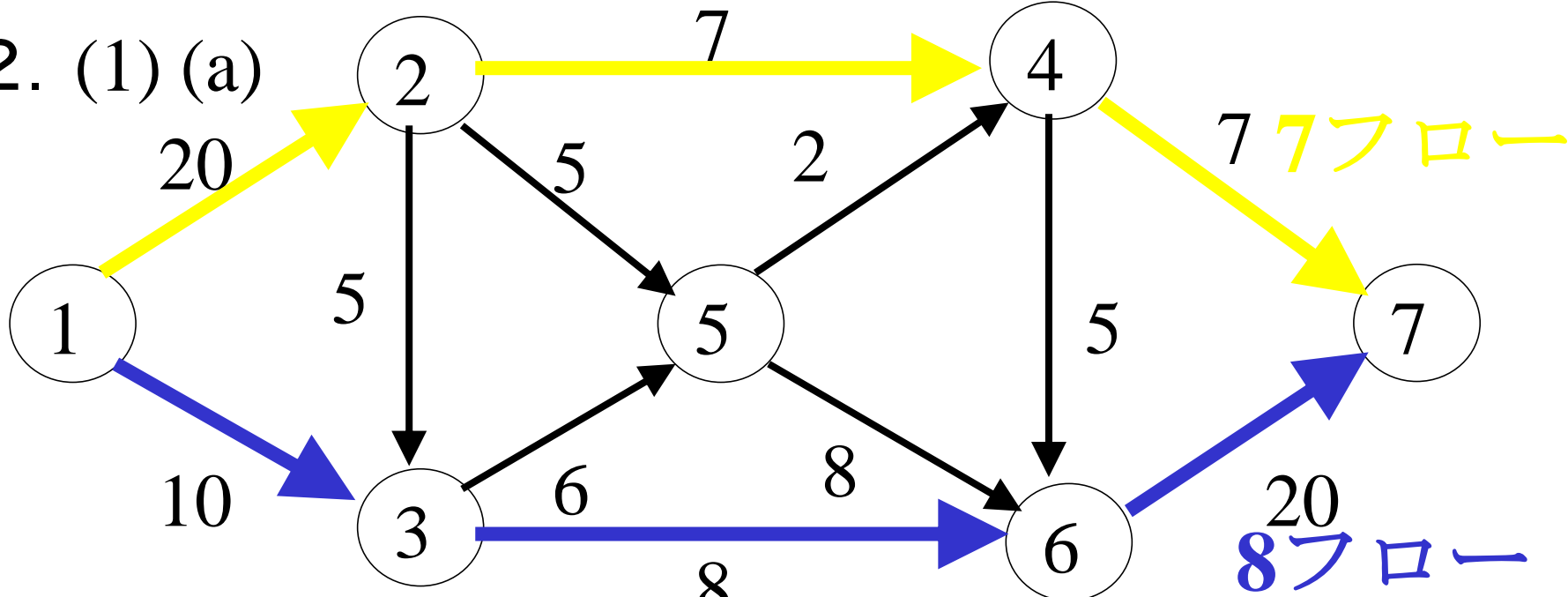
<フロー増加法>

- (0) 適当な初期フロー x を定める (例えば $x_{ij}=0$)
- (1) フロー増加路を見つける.
存在しなければ計算終了.
- (2) フロー増加路に沿って可能な限りフローを追加し, 新しいフロー x を得る. ステップ(1)に戻る.

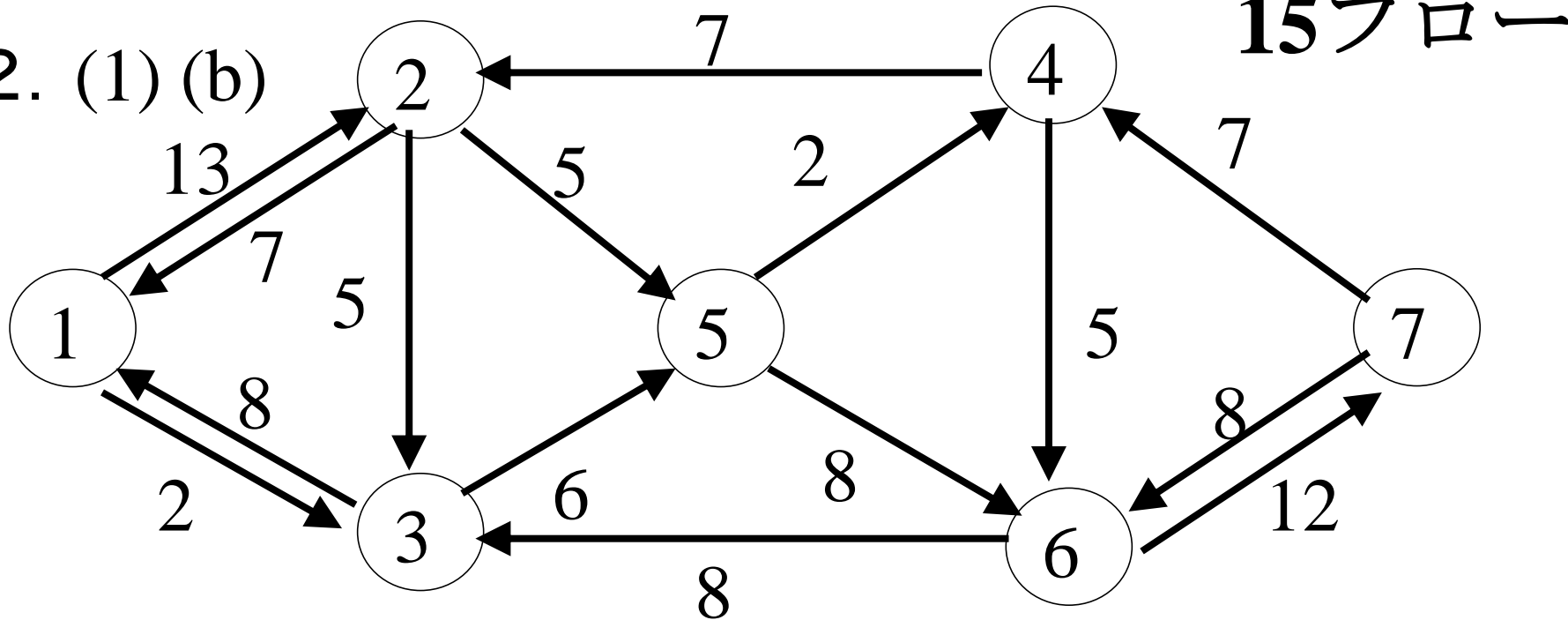
2. (1) 最大流



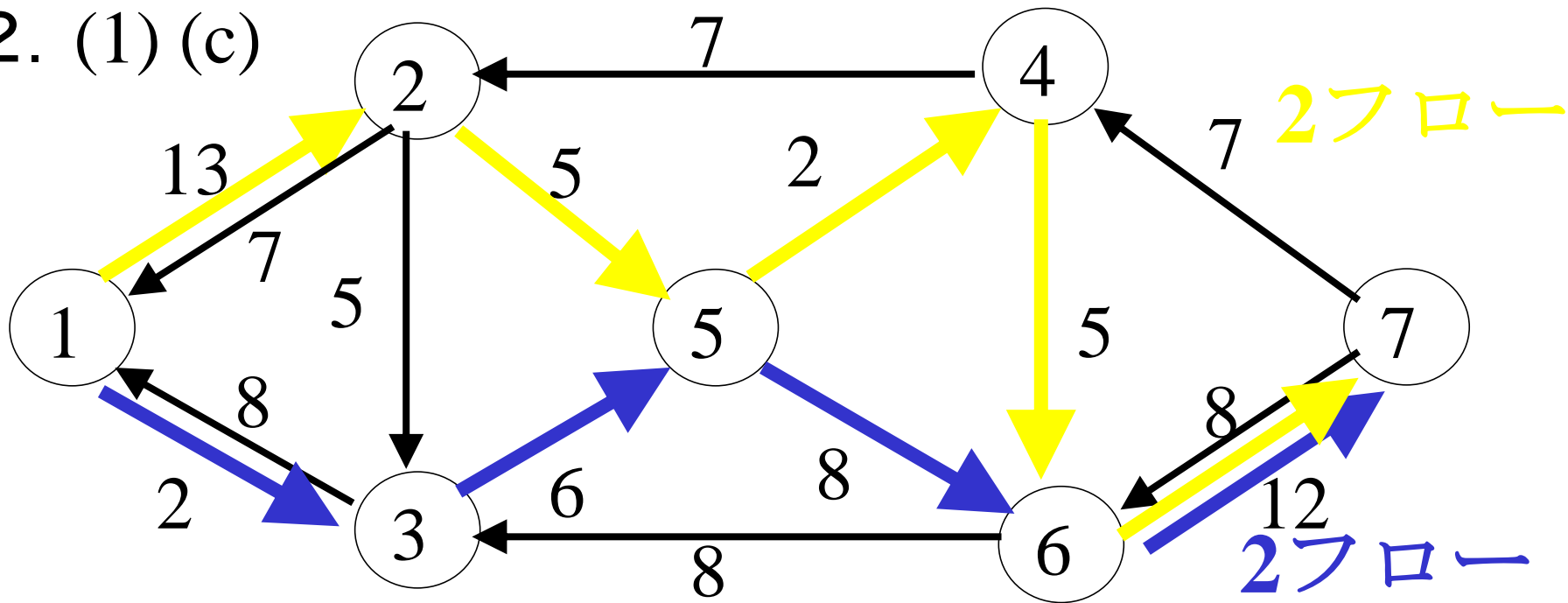
2. (1) (a)



2. (1) (b)

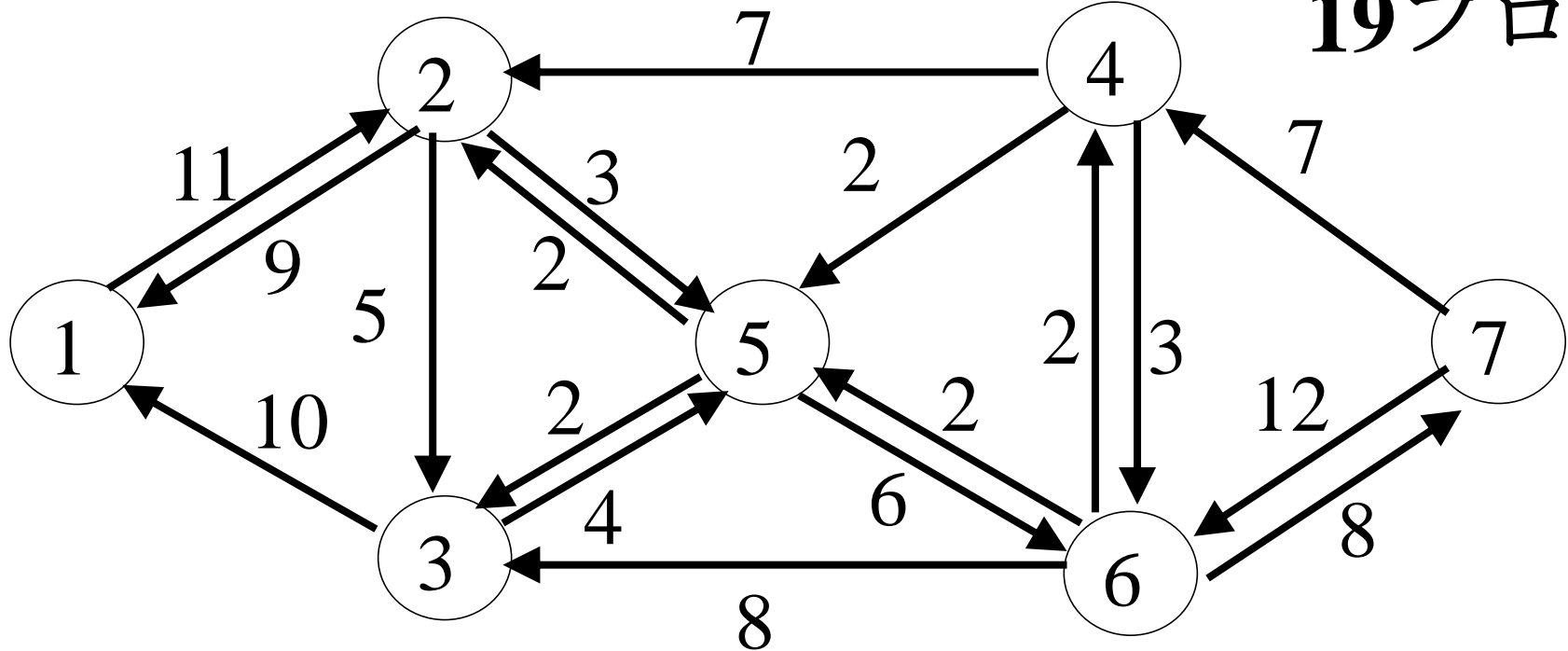


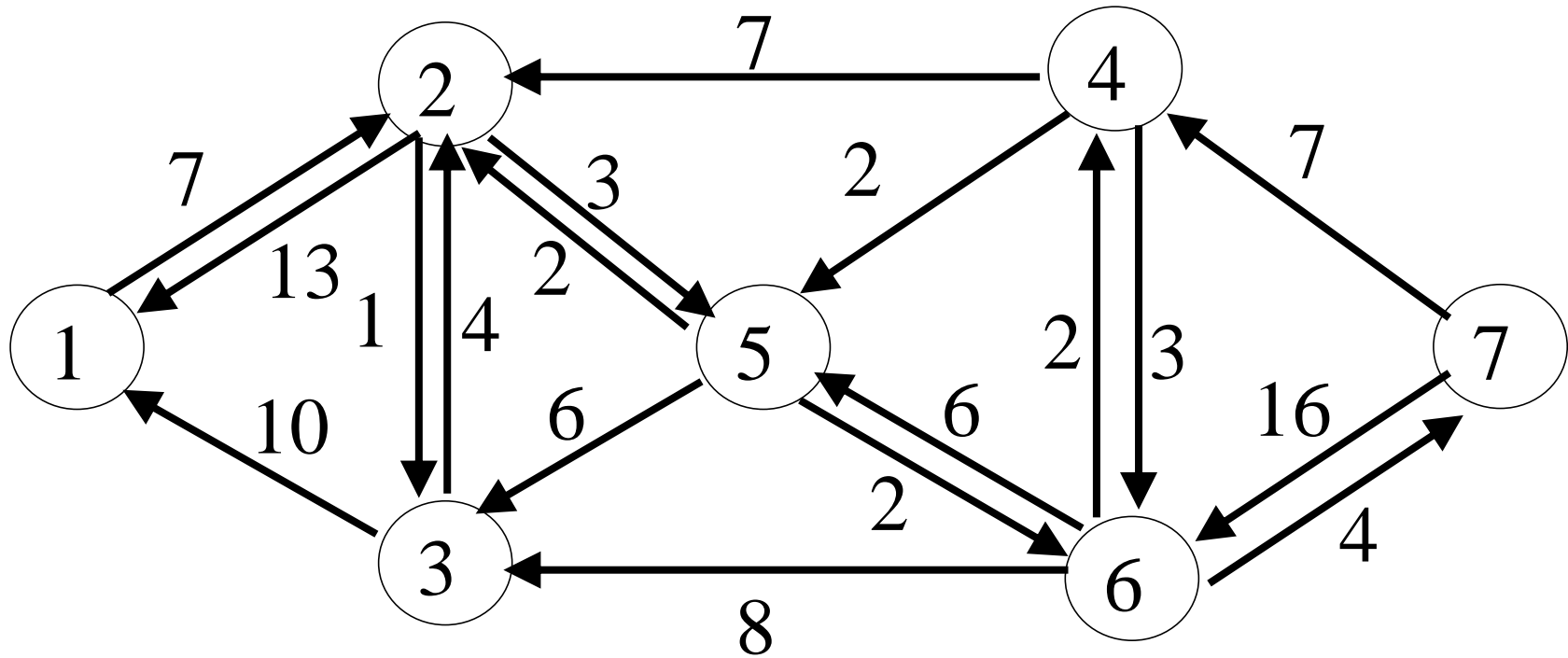
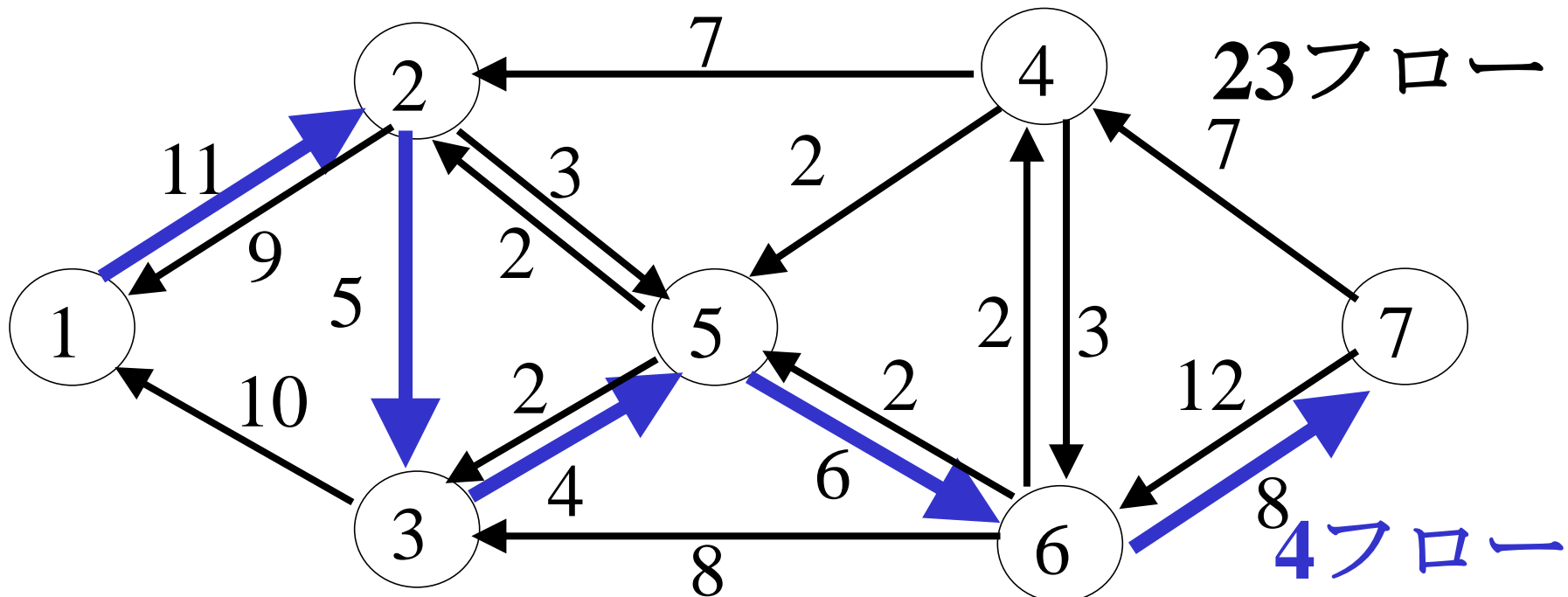
2. (1) (c)

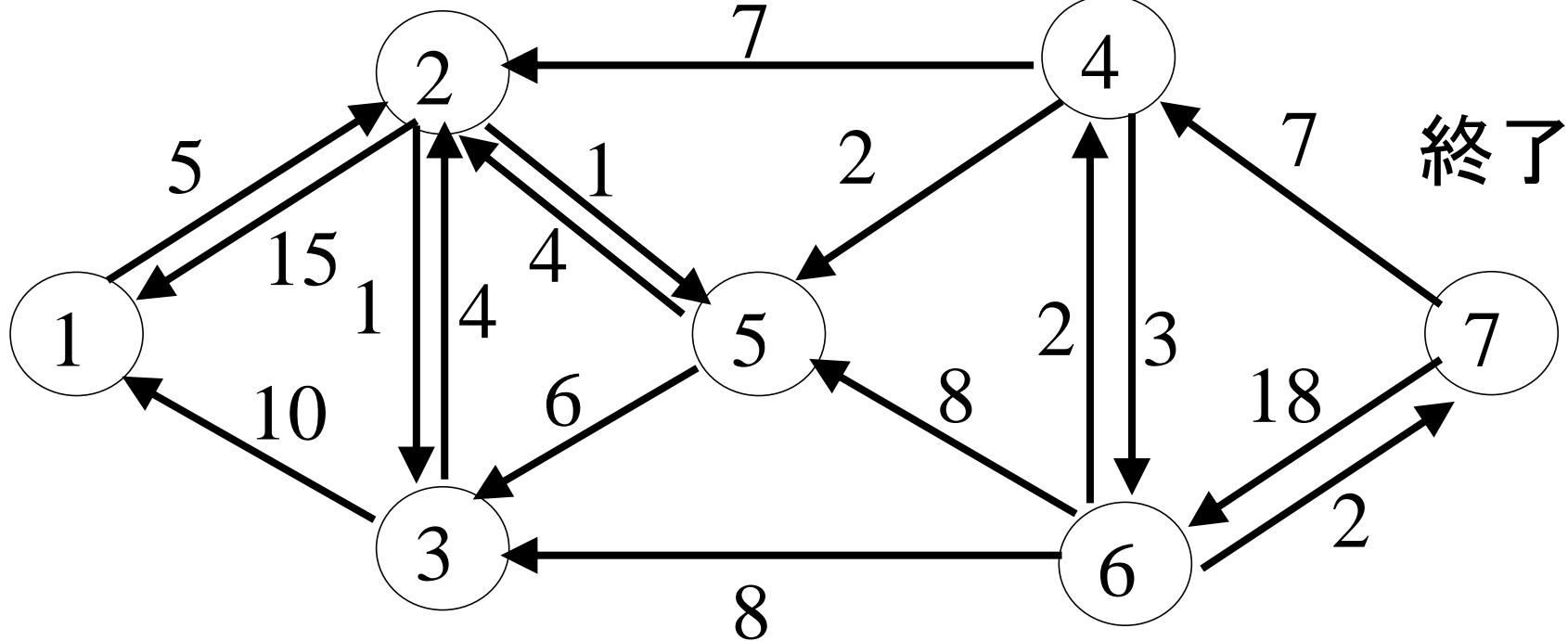
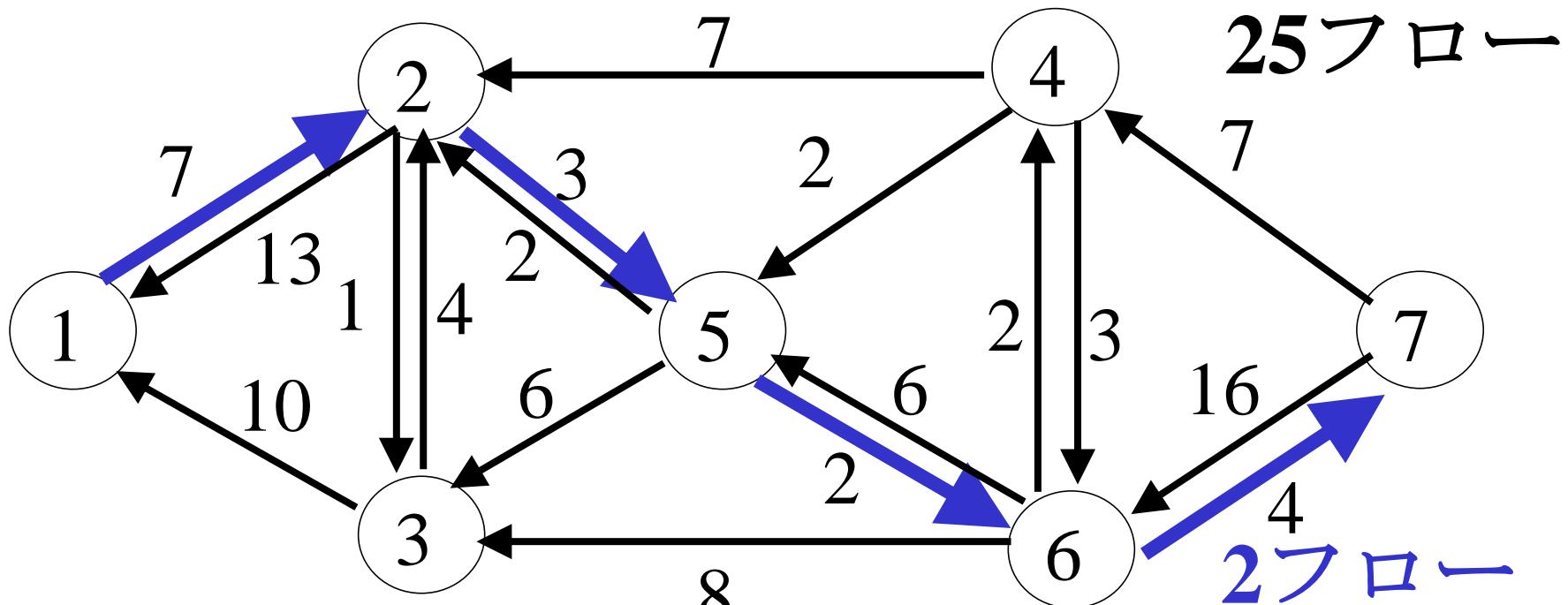


2フロー

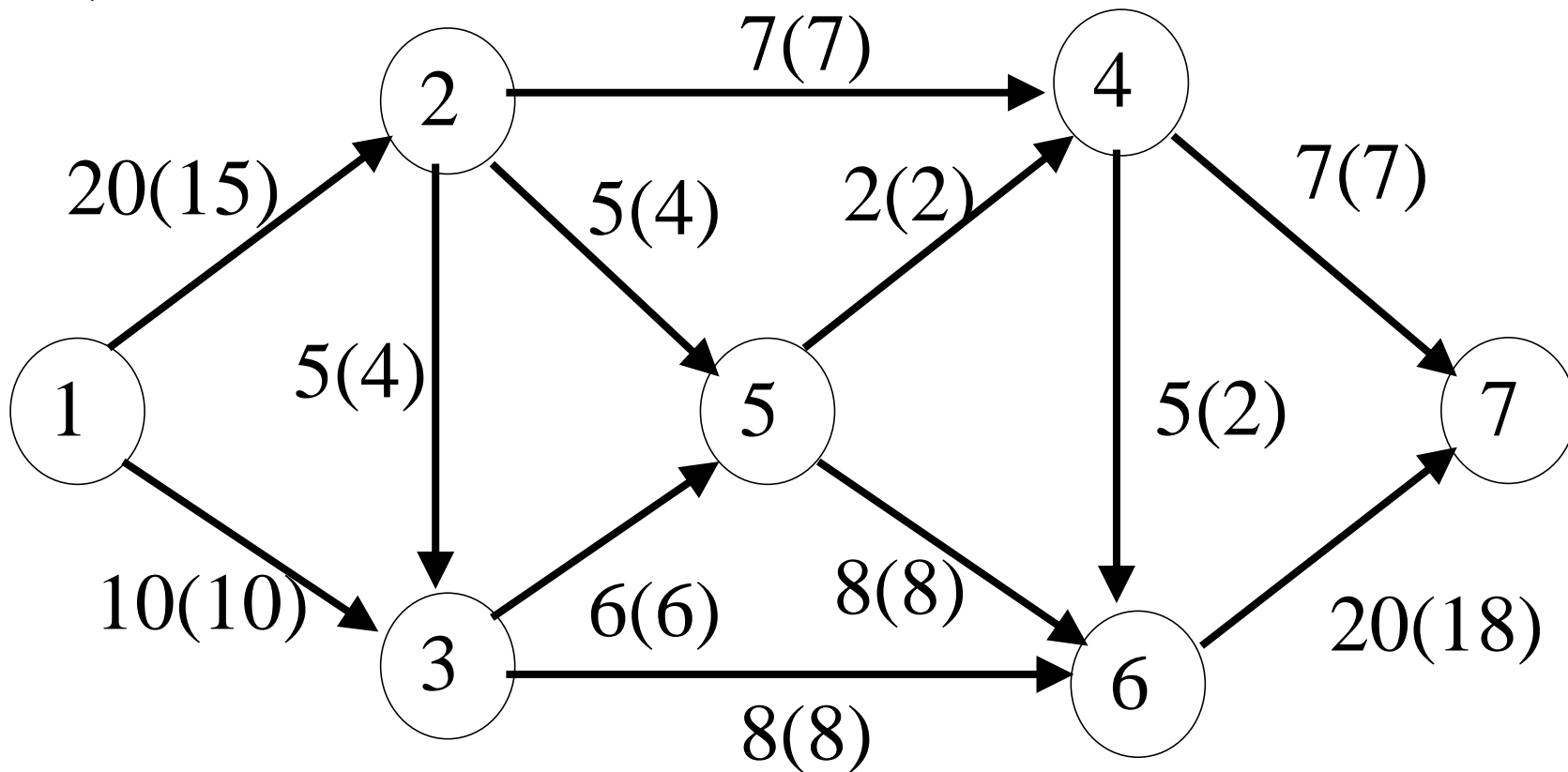
2フロー
19フロー







最大流
流量25



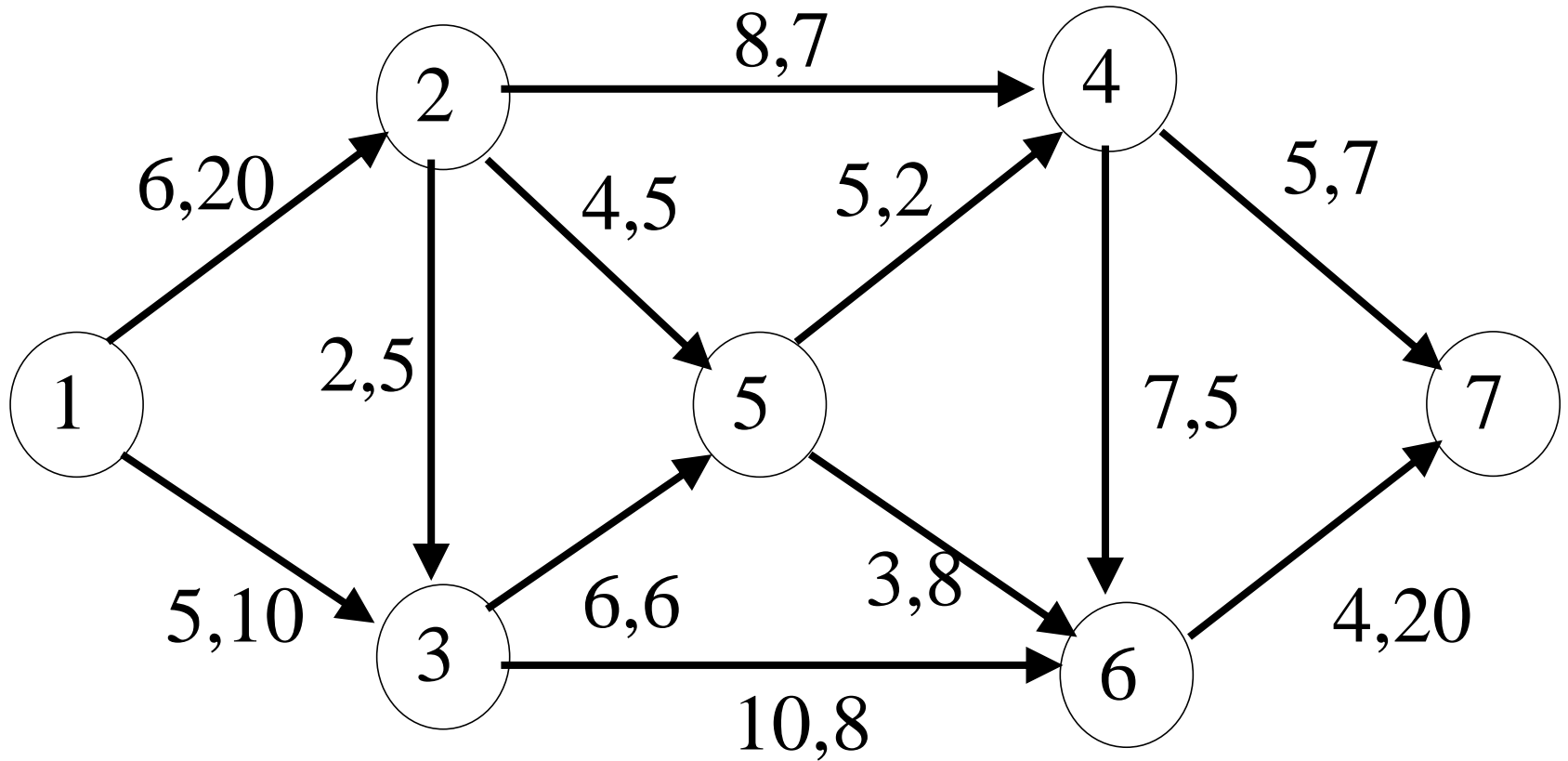
< 負閉路除去法 >

(0) 適当な初期フロー x を定める

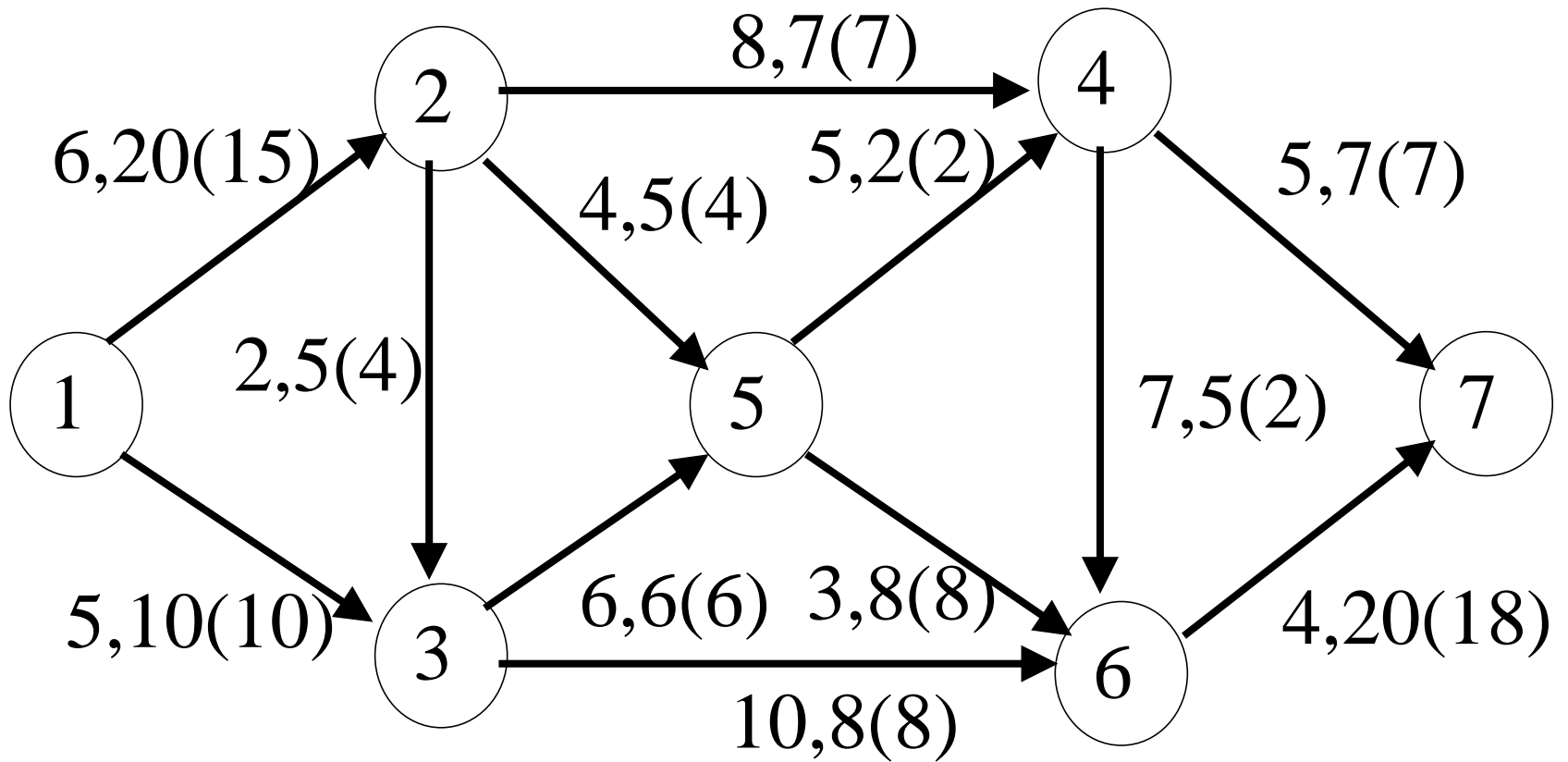
(1) 残余ネットワーク $G^x=(V, E^x)$ において負閉路を見つける. 存在しなければ計算終了.

(2) 負閉路に沿って可能な限りフローを追加し, 新しいフロー x を得る. ステップ(1)に戻る.

2. (2) 最小費用流

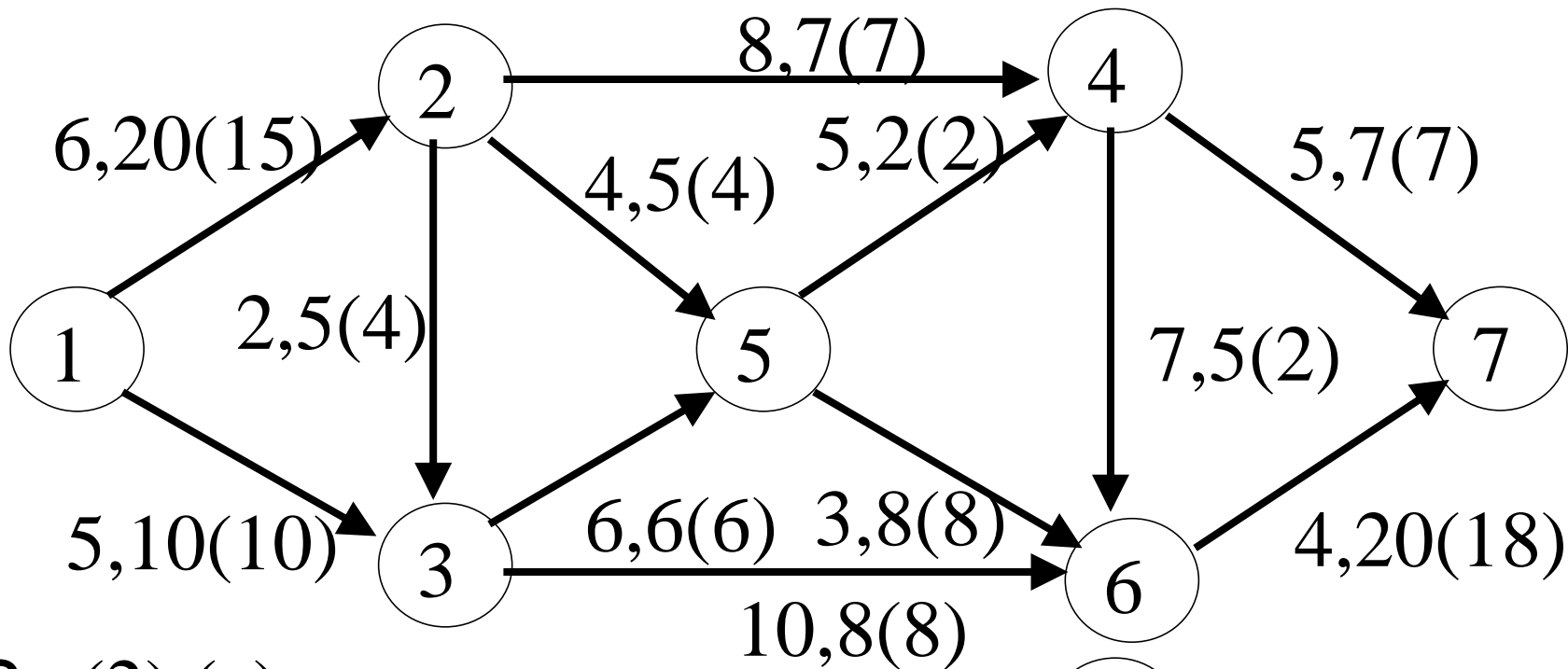


(1)で求めた最大流

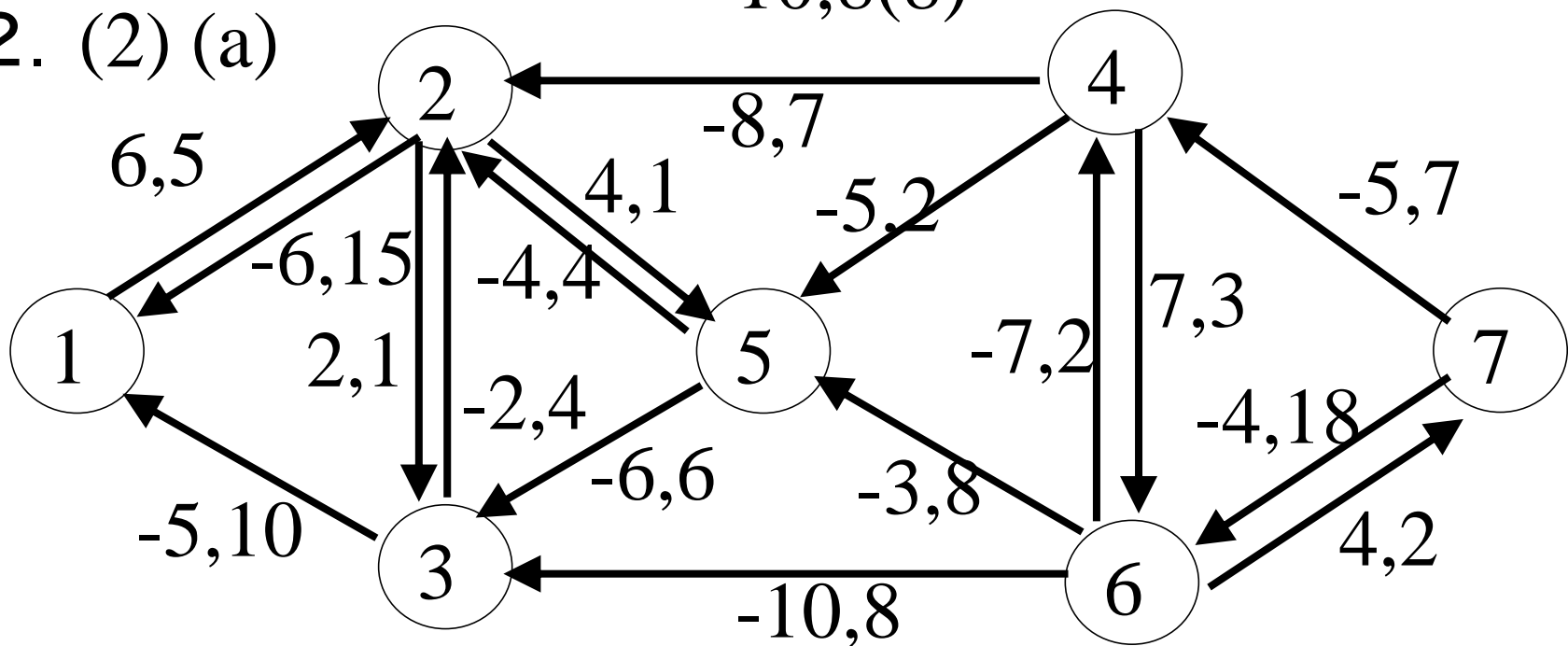


総コスト:

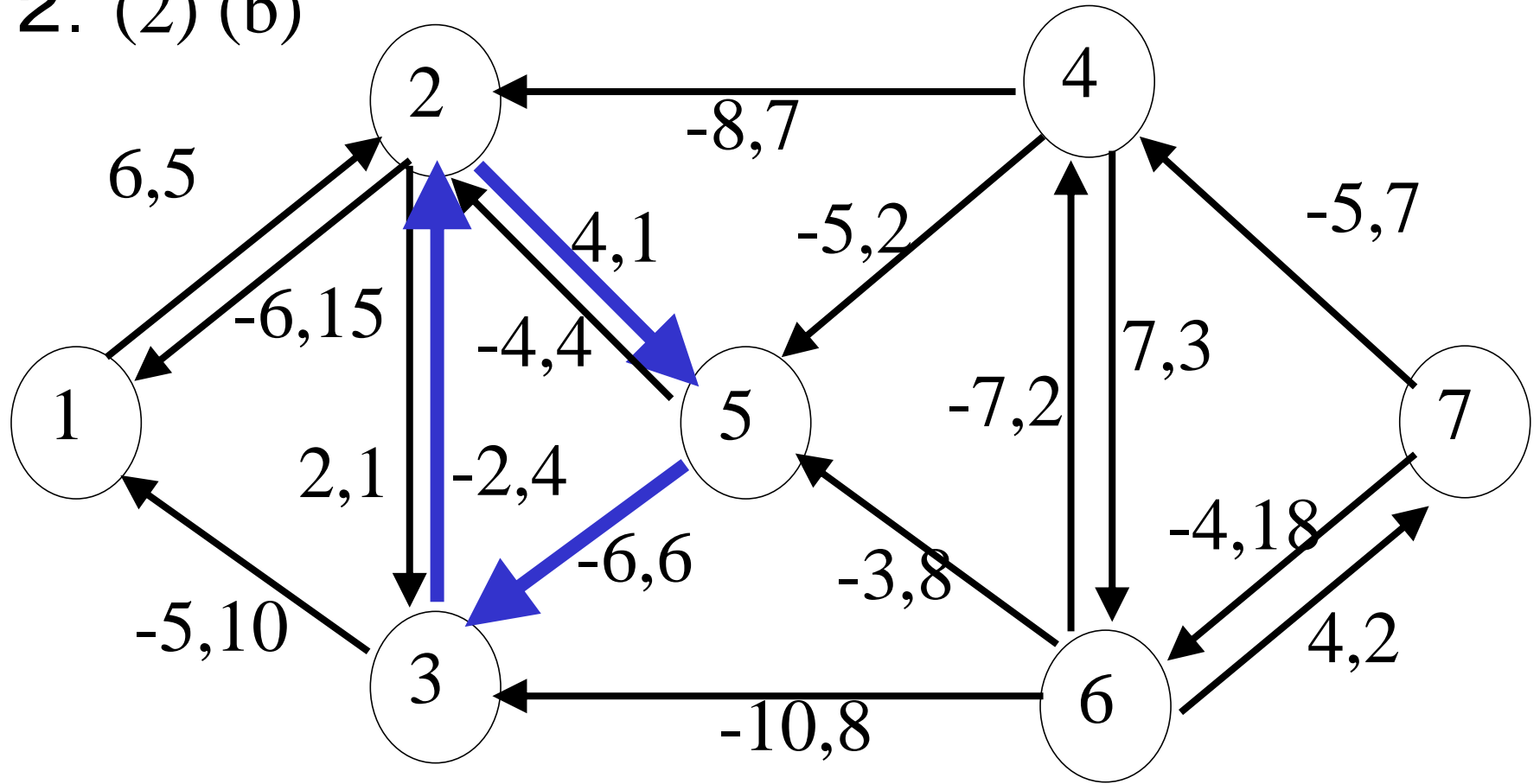
$$90+50+8+56+16+36+80+10+24+14+35+72=491$$



2. (2) (a)



2. (2) (b)



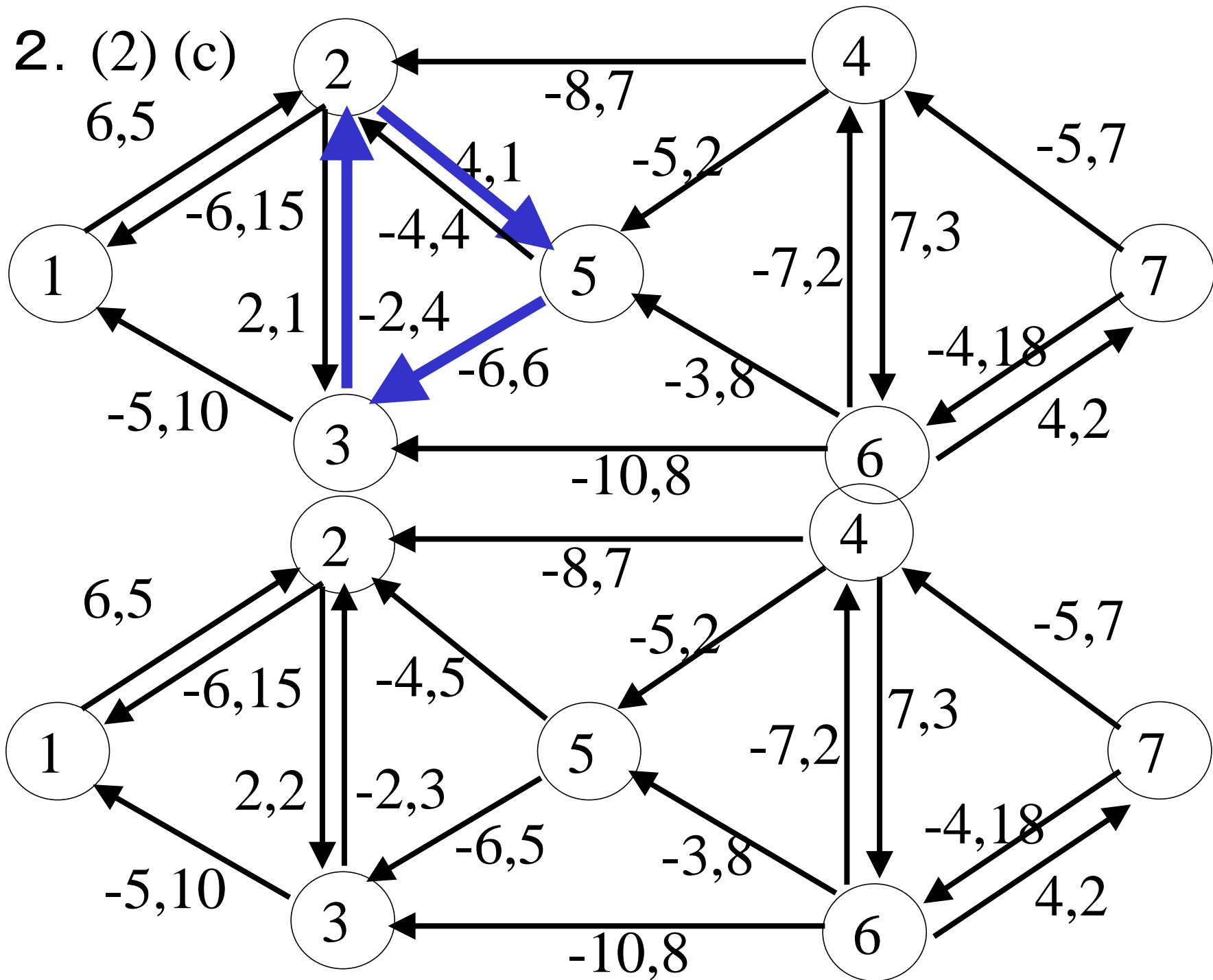
閉路: $2 \rightarrow 5 \rightarrow 3 \rightarrow 2$

コスト: $4 + (-6) + (-2) = -4$

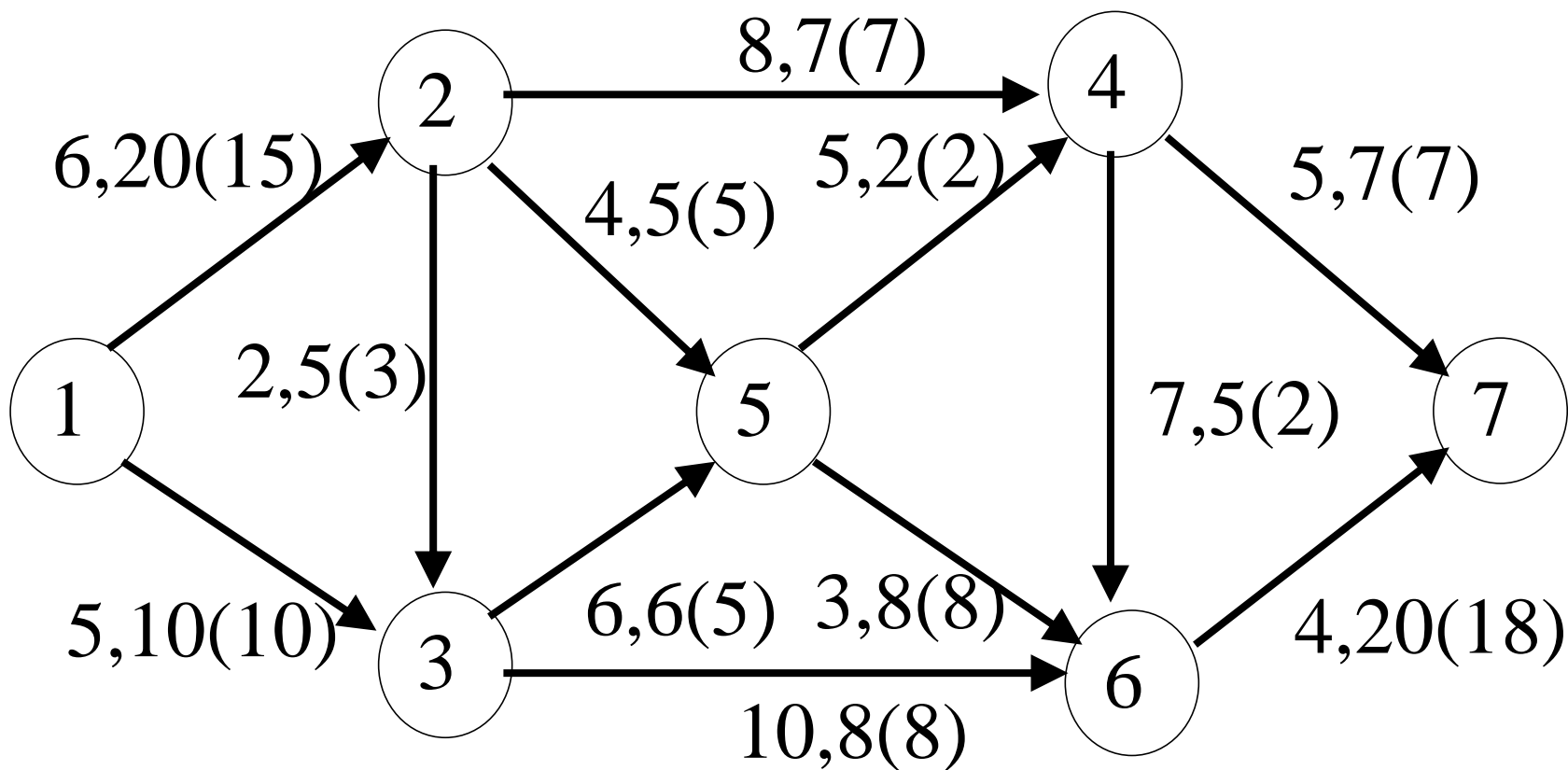
1フロー

総コスト: $491 - 4 = 487$

2. (2) (c)



流量25の最小費用流



総コスト: 487

3. 10分間: $10^9 \times 600 = 6 \times 10^{11}$ 回の演算

$O(n^3)$ の場合

$$n=10^3 \text{ ならば } n^3=10^9$$

$$n=10^4 \text{ ならば } n^3=10^{12}$$

$$n=10^3 \sim 10^4 \quad \text{したがって (c)}$$

$O(n^2)$ の場合

$$n=10^5 \text{ ならば } n^2=10^{10}$$

$$n=10^6 \text{ ならば } n^2=10^{12}$$

$$n=10^5 \sim 10^6 \quad \text{したがって (e)}$$

計算機の演算数:

10分間: $10^9 \times 600 = 6 \times 10^{11}$ 回の演算

$O(n^4)$ の場合 $n=10^2 \sim 10^3$ したがって (b)

$O(n)$ の場合 $n=10^{11} \sim$ したがって (f)

計算量: $O(n)$ の場合 (f)

計算量: $O(n^2)$ の場合 (e)

計算量: $O(n^3)$ の場合 (c)

計算量: $O(n^4)$ の場合 (b)